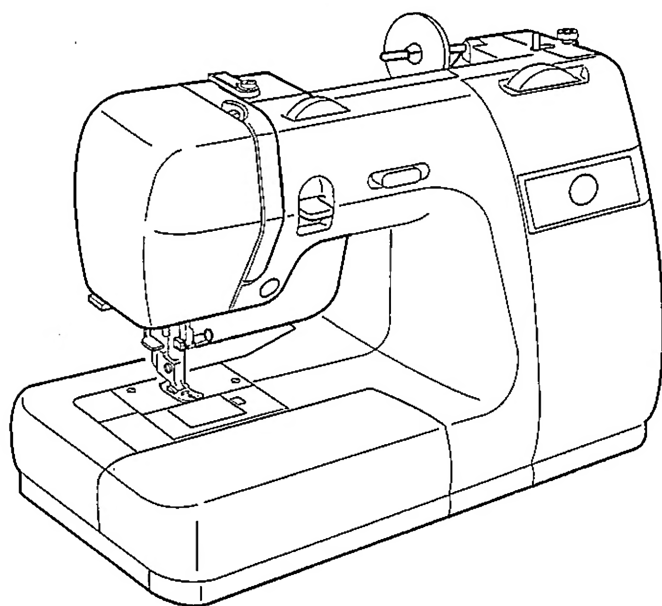
ご使用のしおり

《取扱説明書》



JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　For use in japan only.

危害・損害の程度を表わす表示

	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。		この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
	⊘記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

 感電・火災の恐れがあります。


必ず実行
一般家庭用、交流電源 100 Vでご使用ください。


必ずプラグを持って抜く
以下のような時は、電源スイッチを切り電源プラグを引き抜いてください。
・ミシンのそばを離れるとき
・ミシンを使用したあと
・ミシン使用中に停電したとき



 感電・火災・けがの原因となります。


分解禁止
お客様自身での分解はしないでください。

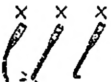



接触禁止
ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。




禁　止
縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。


禁　止
曲がった針はご使用にならないでください。



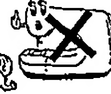

禁　止
付属の電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。
このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。


禁　止
電源コードの上に、物をのせないでください。


必ず実行
針及び押さえは、確実に固定してください。又、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
針が押さえにあたり、けがの原因になります。


必ず実行
ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。


必ず実行
お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用される時は、特に安全に注意してください。




必ずプラグを持って抜く
以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。
・針・針板・押さえ・アタッチメントを交換するとき
・上糸・下糸をセットするとき
・ランプを交換するとき(ランプが冷えてから行ってください。)
・ミシンのお手入れを行うとき


必ずプラグを持って抜く
ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。
・正常に作動しないとき
・水に濡れたとき
・落下などにより破損したとき
・異常な臭い・音がするとき
・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

※仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

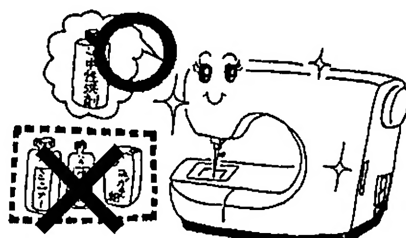
目　次

お取り扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

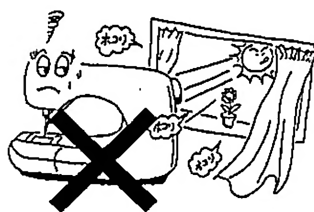


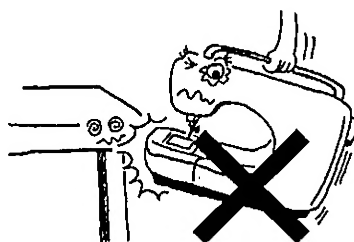
◇いつまでもご愛用いただくために

① 長時間日光に当てないでください。

② 湿気やほこりの多いところはさけてください。

③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

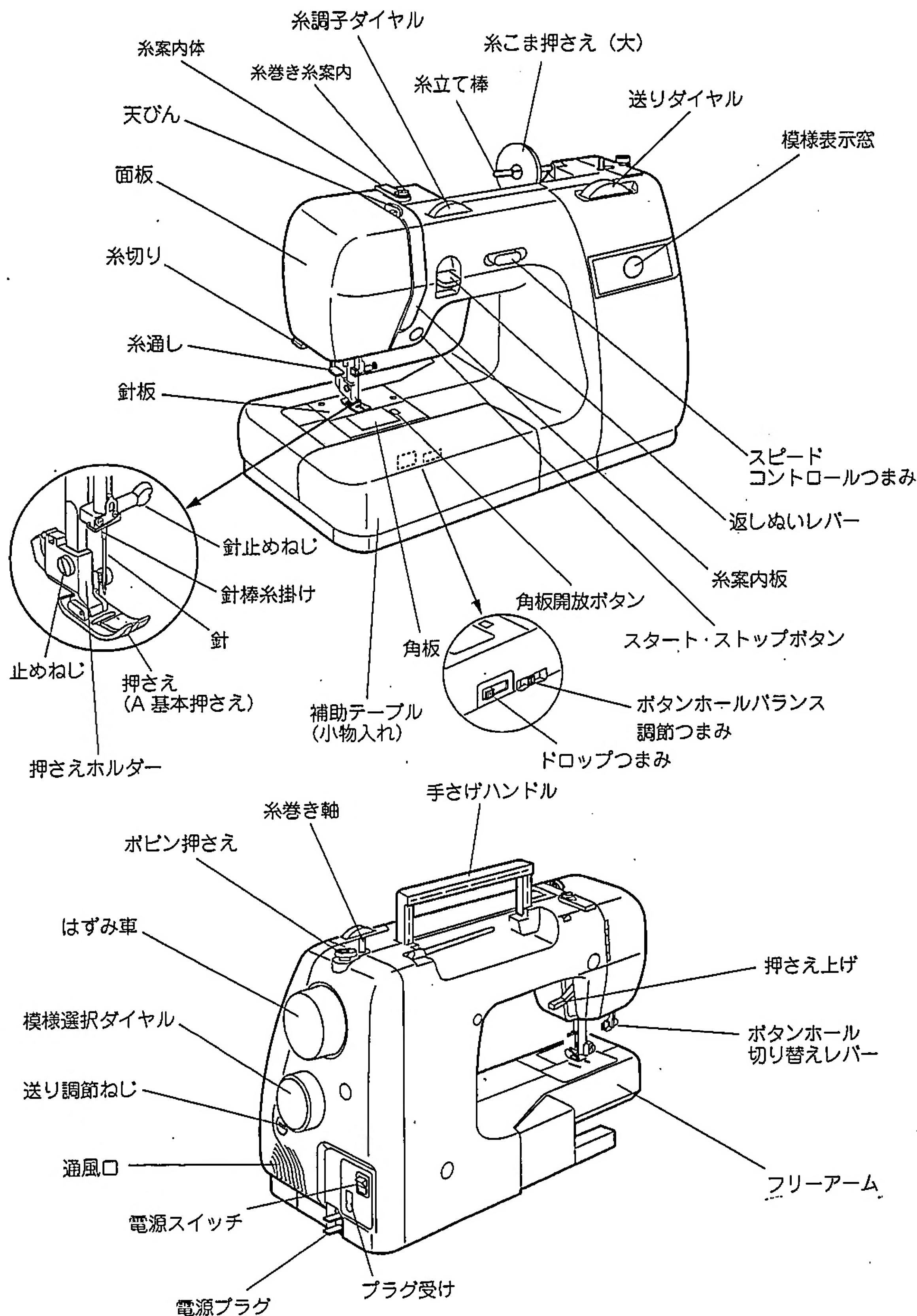




◇修理・調整についてのご案内

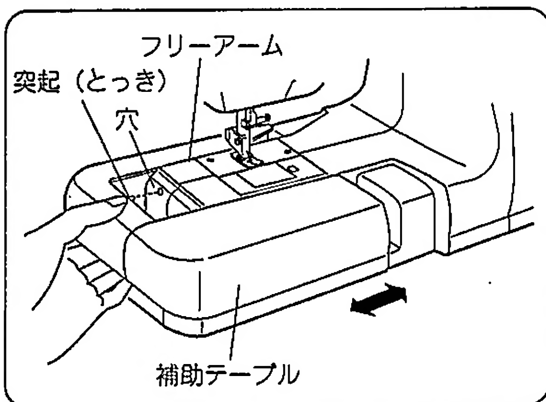
万一不調になったり、故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」（36ページ）により点検・調整を行ってください。

●各部のなまえ



糸調子ダイヤル
糸こま押さえ（大）
糸案内体
糸巻き糸案内
糸立て棒
送りダイヤル
模様表示窓
天びん
面板
糸切り
糸通し
針板
スピード
コントロールつまみ
返しぬいレバー
針止めねじ
糸案内板
針棒糸掛け
角板開放ボタン
針
スタート・ストップボタン
角板
止めねじ
押さえ
(A 基本押さえ)
ボタンホールバランス
調節つまみ
補助テーブル
(小物入れ)
ドロップつまみ
押さえホルダー
手さげハンドル
糸巻き軸
ボビン押さえ
はずみ車
押さえ上げ
模様選択ダイヤル
ボタンホール
切り替えレバー
送り調節ねじ
通風口
フリーアーム
電源スイッチ
プラグ受け
電源プラグ

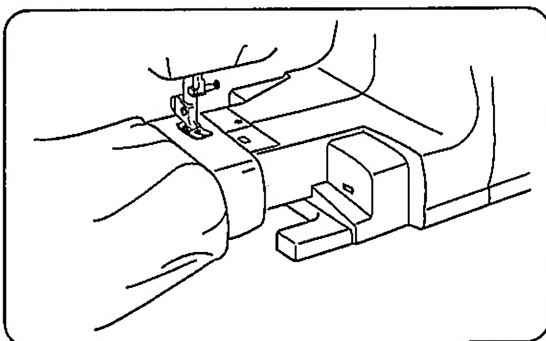
●補助テーブルの使い方



【補助テーブルの外し方・付け方】

補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。

取り付けるときは、フリーアームにそわせ、突起（とっき）を穴に入れ、取り付けます。



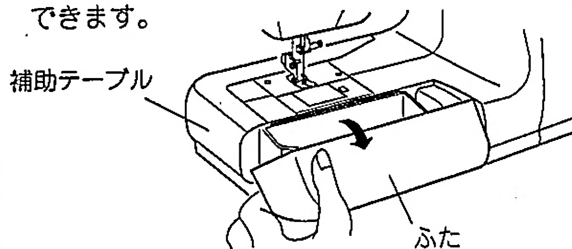
【フリーアームの使い方】

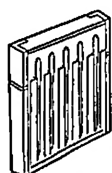
補助テーブルを外すと、フリーアームになります。

そで口やすそなどのぬい、およびふくろ物の口端の始末に利用します。

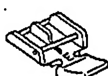
●標準付属品と収納場所

補助テーブルのふたを開くと、小物部品の収納ができます。

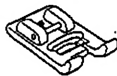




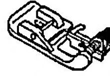
針



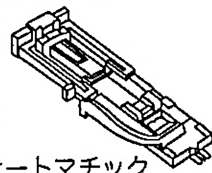
E:ファスナー押さえ



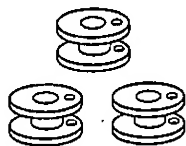
F：サテン押さえ



G:くけぬい押さえ



R：オートマチック ボタンホール押さえ



ボビン



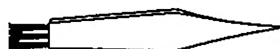
C：たち目かがり押さえ



キルター



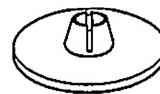
目ほどき



ミシンブラシ



糸こま押さえ（小）



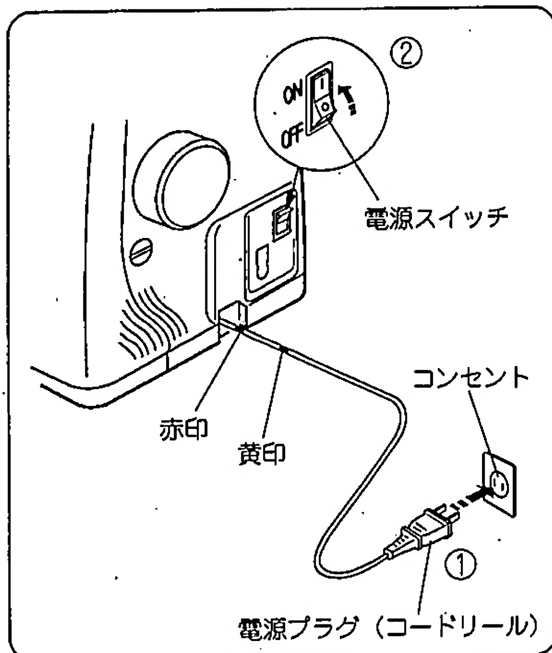
糸こま押さえ（大）

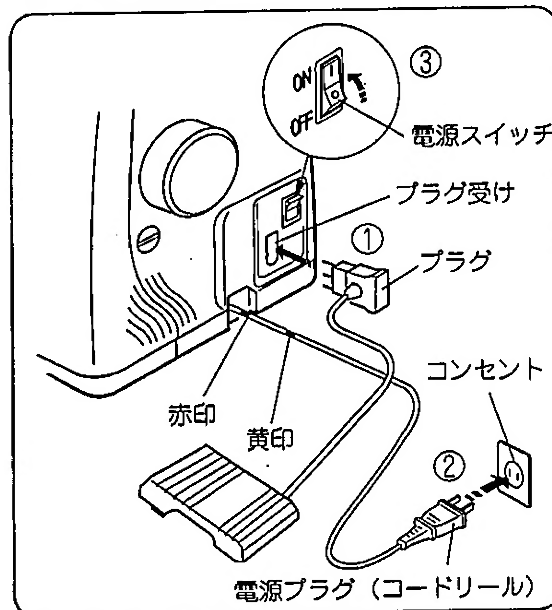
ねじまわし

※糸こま押さえ（大）は、ミシンの糸立て棒に付いています。

●操作方法

◎電源のつなぎ方





★スタート・ストップボタンを使用する場合

①電源スイッチを「OFF」（切）にして、電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。

②電源スイッチを「ON」（入）にします。

※電源コードは、黄印が出てきたらゆっくり引いてください。また、赤印以上は引き出さないでください。

⚠警告
•電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。 •ミシンを使わないときは、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。 感電・火災の原因になります。

★フットコントローラーを使用する場合

（フットコントローラーはモデルにより別売りになります。）

①電源スイッチを「OFF」（切）にして、プラグをプラグ受けに差し込みます。

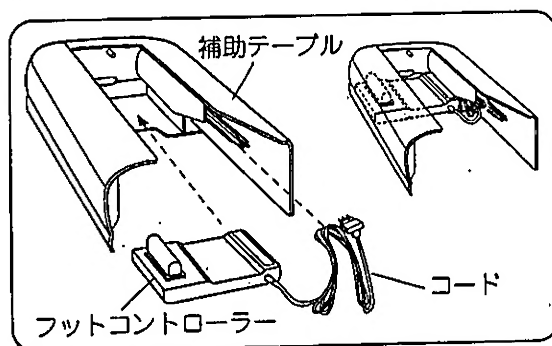
②電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。

③電源スイッチを「ON」（入）にします。

※電源コードは、黄印が出てきたらゆっくり引いてください。また、赤印以上は引き出さないでください。

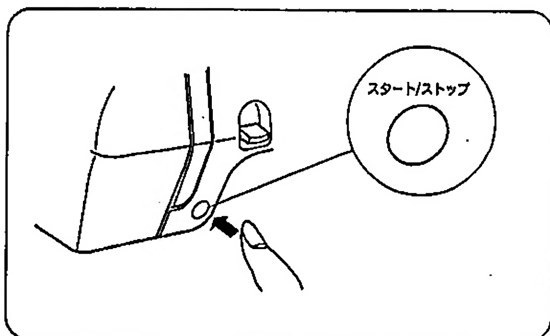
※フットコントローラーを使用する場合は、スタート・ストップボタンは作動しません。

◎フットコントローラーの収納



フットコントローラーを補助テーブルに入れます。コードを 4 つ折りにして、補助テーブルに収納します。

◎スタート・ストップボタン

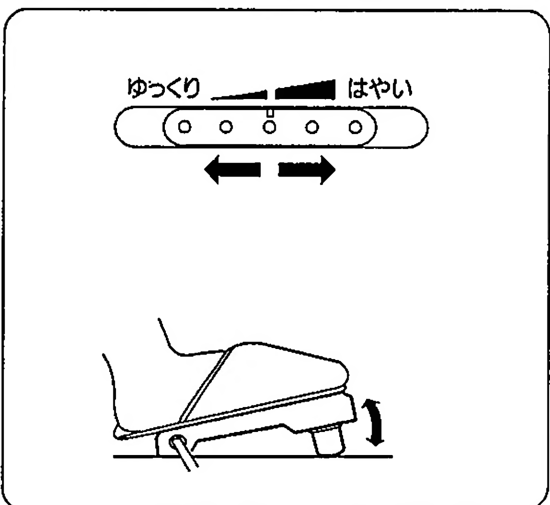


ボタンを押すと、ゆっくり動き始めてから、スピードコントロールつまみでセットした速さになります。
もう一度押すと、針が上の位置で止まります。

※フットコントローラーを使用する場合は、スタート・ストップボタンは作動しません。

◎速さの調節のし方

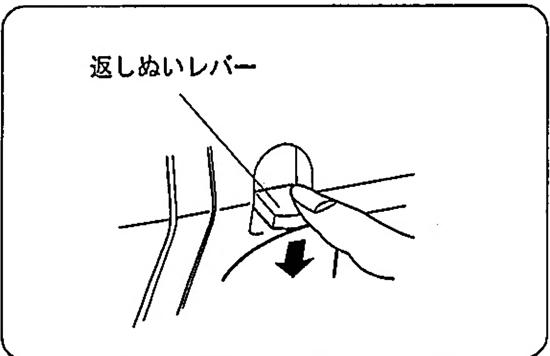
（ミシンの速さは、スピードコントロールつまみや、フットコントローラーで調節します。）



【スピードコントロールつまみ】
ぬう速さはスピードコントロールつまみで自由に調節できます。
お好みの速さにセットしてください。

【フットコントローラー】
フットコントローラーは、深くふみ込むほど速くなります。
※スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてください。

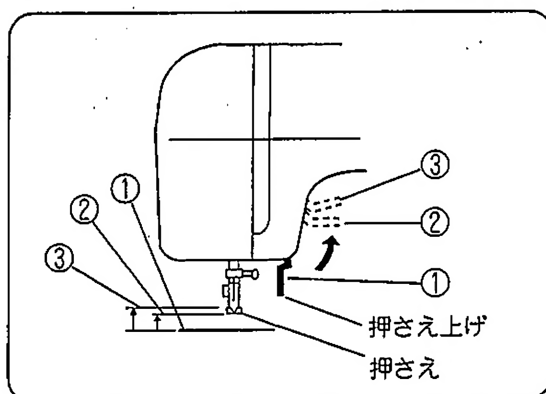
◎返しぬいレバー



【運転中の返しぬい】
ぬっている途中で返しぬいレバーを押すと、押しているあいだは低速で返しぬいをし、手をはなすと前進ぬいにもどります。

【停止中の返しぬい】
停止中に返しぬいレバーを押すと、押しているあいだは低速で返しぬいをし、手をはなすと止まります。
※不用意に返しぬいレバーにふれると、ミシンが動きだしますのでご注意ください。

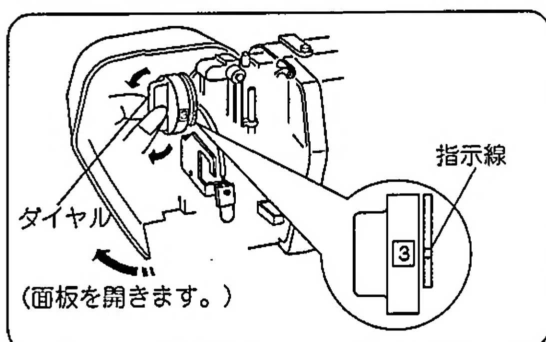
◎押さえ上げ



押さえ上げで、押さえのあげさげをします。
押さえ上げを普通にあげた位置よりさらに高くあげると、押さえはさらにあがります。
補助リフトとしてお使いください。

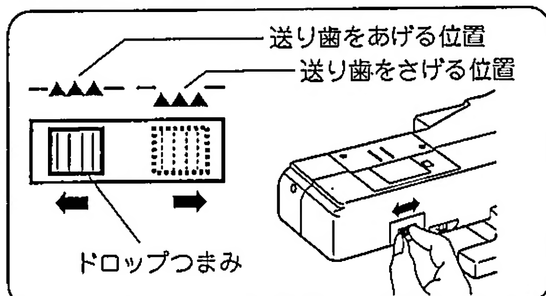
①さげた位置　　　…ぬうときには、さげておきます。
②普通にあげた位置…布の取り出しや、押さえの交換のときにあげます。
③さらにあげた位置…補助リフトで、厚い布等が入れやすくなります。

◎押さえ圧調節ダイヤル



ダイヤルをまわし、目盛りを指示線に合わせます。
普通ぬいのときは、「3」に合わせます。
うす手の化繊地や伸縮性のある布地をぬうとき、およびアップリケなどぬいしろ部分が重なり合うものをカーブしてぬうときなど、ぬいずれしやすい場合は「2」または「1」に合わせます。

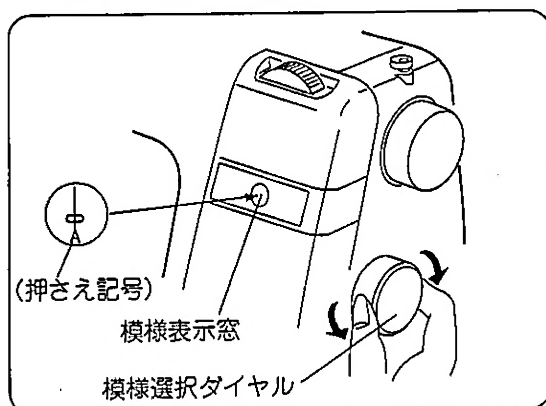
◎ドロップつまみ



ボタンつけなどで送り歯をさげるときは、ドロップつまみを動かします。

※使用後は、送り歯をあげる位置にもどしておいてください。(送り歯はミシンが動くと自動的にあがります。)

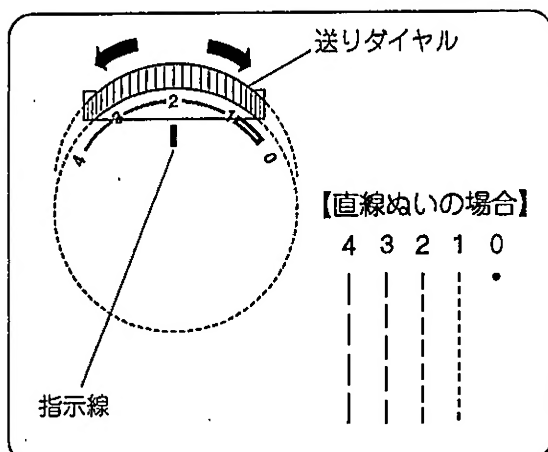
◎模様選択ダイヤル



模様を選ぶときは、針をあげた状態で、模様選択ダイヤルをまわして模様表示窓に表示させます。
(押さえ記号も表示されますので、模様に合ったものを使用してください。)

※針が布にささったままで模様選択ダイヤルをまわすと、針が曲がったり、折れたりする原因になります。

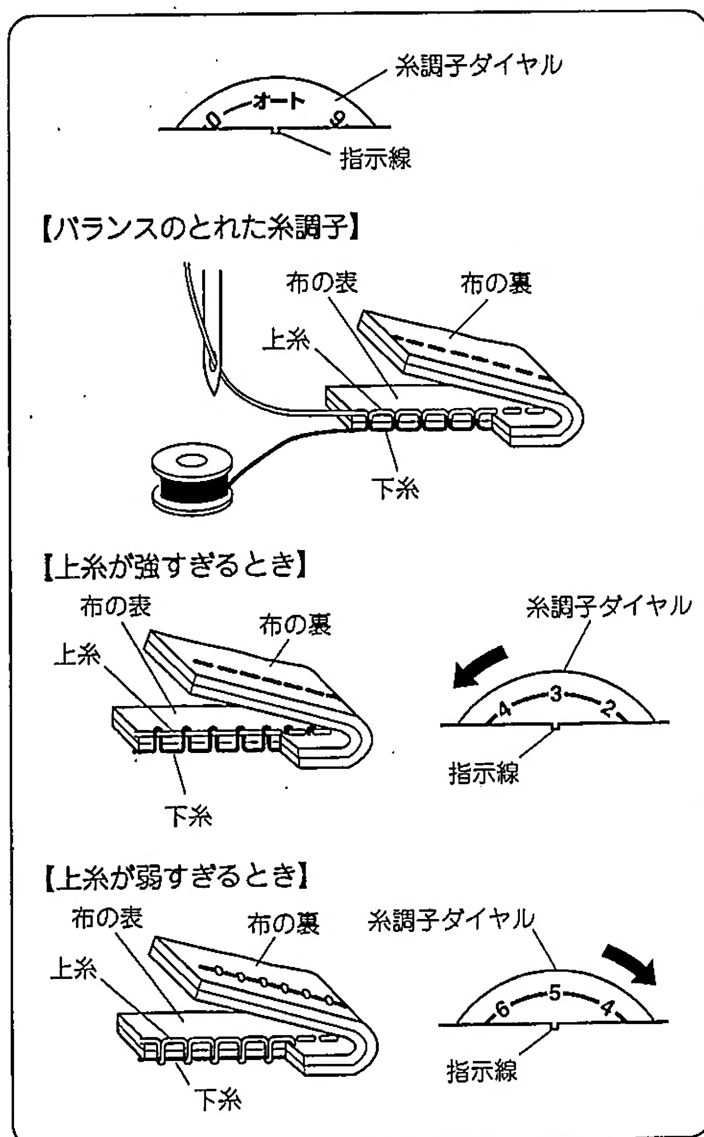
◎送りダイヤル



ぬい目のあらさをかえるときは、送りダイヤルをまわして目盛りを指示線に合わせます。
数値を大きくすると、ぬい目のあらさがあらくなります。

※ボタンホールのときは、目盛り「▭」の範囲に合わせてください。
その他の模様は、用途に合わせてセットしてください。

◎糸調子の合わせ方



このミシンは、指示線に糸調子ダイヤルの「オート」を合わせると、普通ぬいのときにバランスよくぬえる糸調子に自動セットされます。
特殊なぬい方をする模様や、素材、ぬい方などによって糸調子のバランスがとれないときは、糸調子ダイヤルをまわしてマニュアル調節をします。

【バランスのとれた糸調子】

- 直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。
- ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

※糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

【上糸が強すぎるとき】

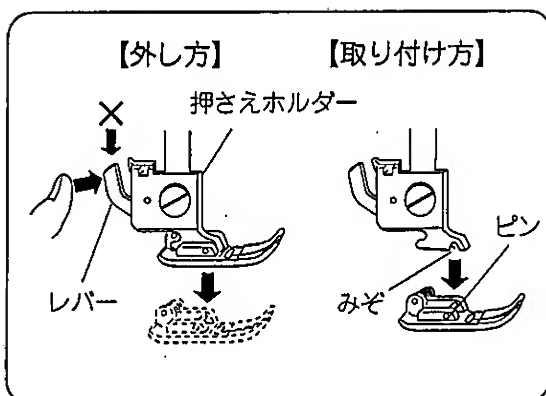
下糸が布の表に出ます。
…糸調子ダイヤルをまわして、小さな目盛りを指示線に合わせます。

【上糸が弱すぎるとき】

上糸が布の裏に出ます。
…糸調子ダイヤルをまわして、大きな目盛りを指示線に合わせます。

●ぬう前の準備

◎押さえの交換

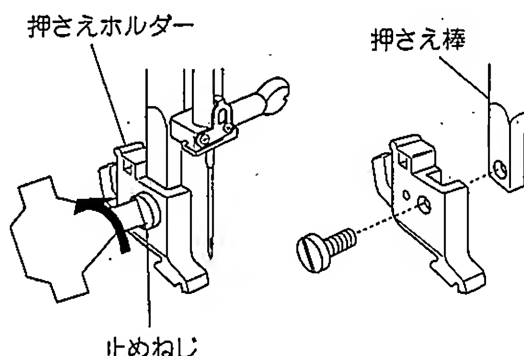


【押さえの外し方】
押さえ上げをあげて、押さえホルダーのレバーを押して、外します。

※レバーは、真上から押さないでください。

【押さえの取り付け方】
押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

【押さえホルダーの着脱方法】



- 取り外す場合は、押さえ上げをあげ、止めねじを左にまわして外します。
- 取り付ける場合は、止めねじを右にまわして、押さえ棒にしっかりと取り付けます。

⚠注意
押さえ・押さえホルダーの交換は、必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてから行ってください。けがの原因になります。

◎布に適した糸と針の目安

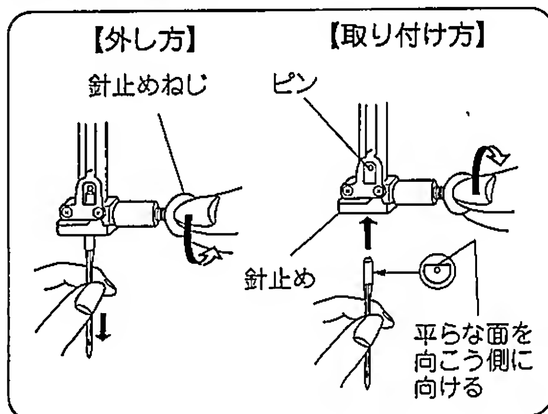
布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット ウール・化繊布	絹　糸　８０番～１００番 綿　糸　８０番～１００番 化繊糸　８０番～１００番	９番～１１番
普通の布	普通木綿・化繊布 薄手ジャージー 一般ウール	絹　糸　５０番 綿　糸　６０番～８０番 化繊糸　５０番～８０番	１１番～１４番
		綿　糸　５０番	１４番
厚い布	デニム ジャージー コート地 キルティング	絹　糸　５０番 綿　糸　４０番～５０番 化繊糸　４０番～５０番	１４番～１６番
		絹　糸　３０番 綿　糸　３０番	１６番

※一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。
この表を目安に、針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※原則として、上糸と下糸は同じものを使用してください。

※伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ジャノメブルー針を使用すると効果があります。（市販ＳＰ針も同様の効果があります。）

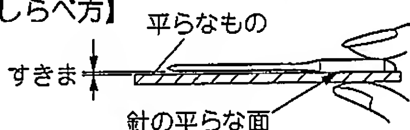
◎針の交換



【針の外し方】
針をあげ、押さえ上げをさげた状態で、針止めねじを手前に１～２回まわしてゆるめ、針を外します。

【針の取り付け方】
針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをかたくしめます。

【針のしらべ方】



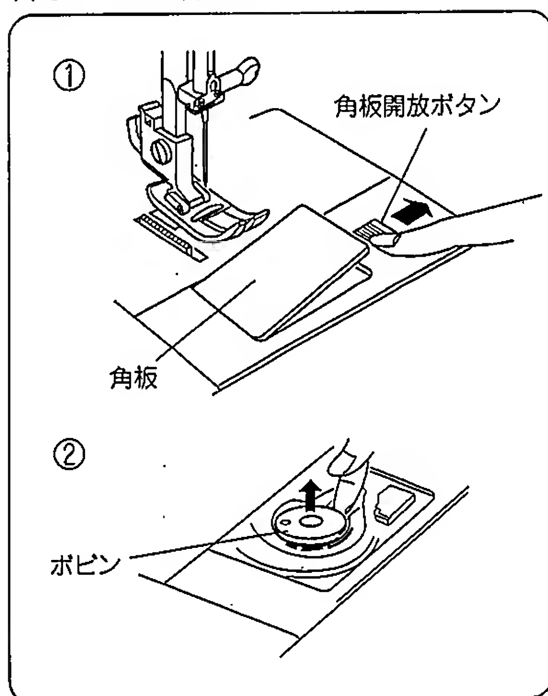
針の平らな面を平らなもの（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均一に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

⚠注意

針の交換は、必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてから行ってください。
けがの原因になります。

◎下糸の準備

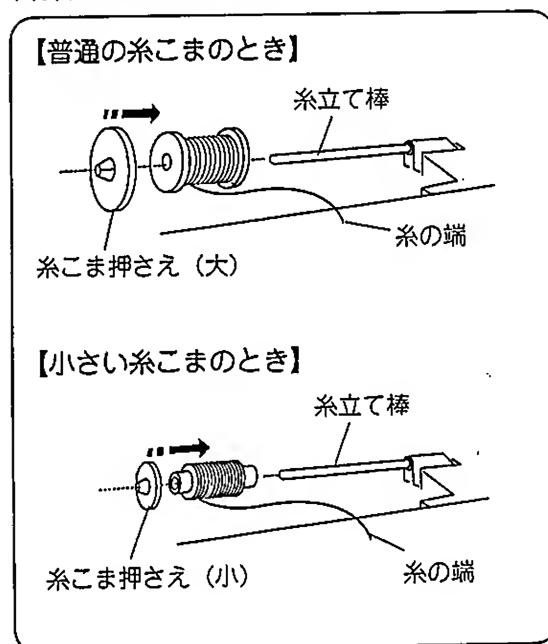
★ボビンの取り出し



①角板開放ボタンを右にずらして、角板を外します。

②ボビンを取り出します。

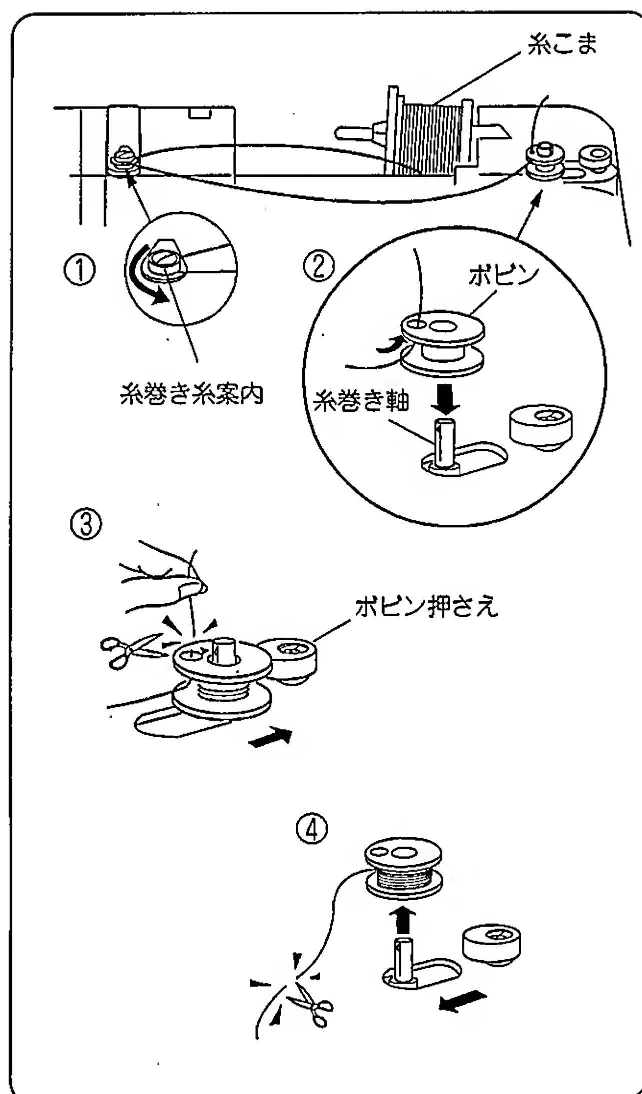
★糸こまの取り付け



糸の端が糸こまの下から手前に出るようにして糸こまを入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

※小さい糸こまは、糸こま押さえ（小）を使用してください。

★ボビンに糸を巻く



※スピードコントロールつまみは「はやい」の位置にしてください。

①糸こま側の糸を軽く押さえ、糸巻き糸案内に糸をかけます。

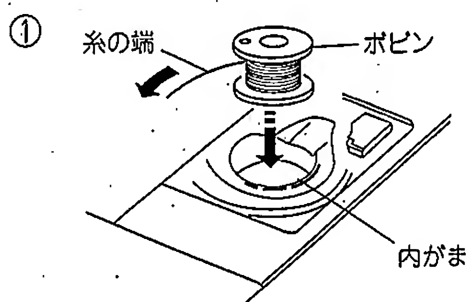
②ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。

③ボビンをボビン押さえの方に押し付け、糸の端をつまんだままミシンをスタートさせて巻き始めます。
糸がボビンに3重くらい巻きついたらミシンを止めて、穴のきわでつまんでいる糸を切ります。

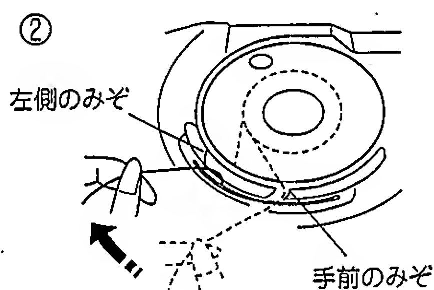
④再びスタートして巻き終わると、ボビンの回転が止まります。
ミシンを止めたあと、糸巻き軸をもどし、ボビンを糸巻き軸から外し、糸を切ります。

※糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから移動してください。

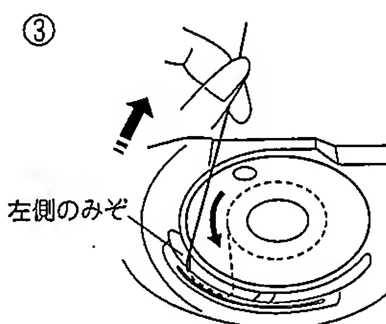
★ボビンのセット



①糸の端を矢印方向に出して、ボビンを内がまに入れます。

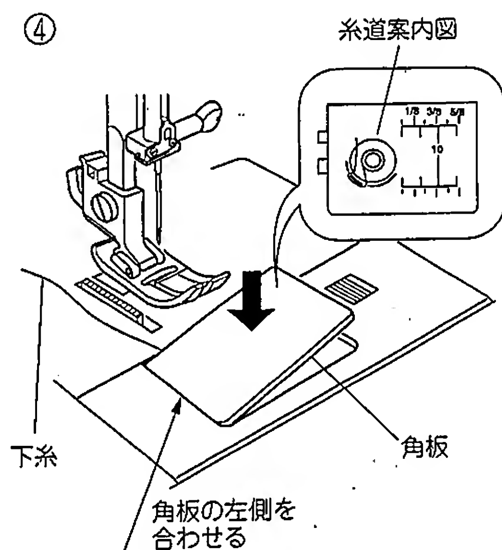


②糸の端を引きながら、手前のみぞにかけ、そのまま左へまわして、左側のみぞのところに出します。



③糸を左側のみぞにかけて、向こう側に出します。

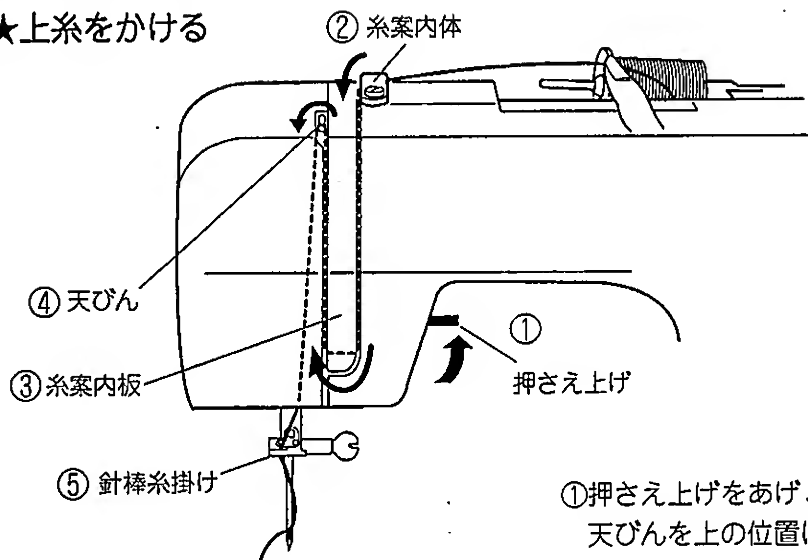
※糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。
時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。



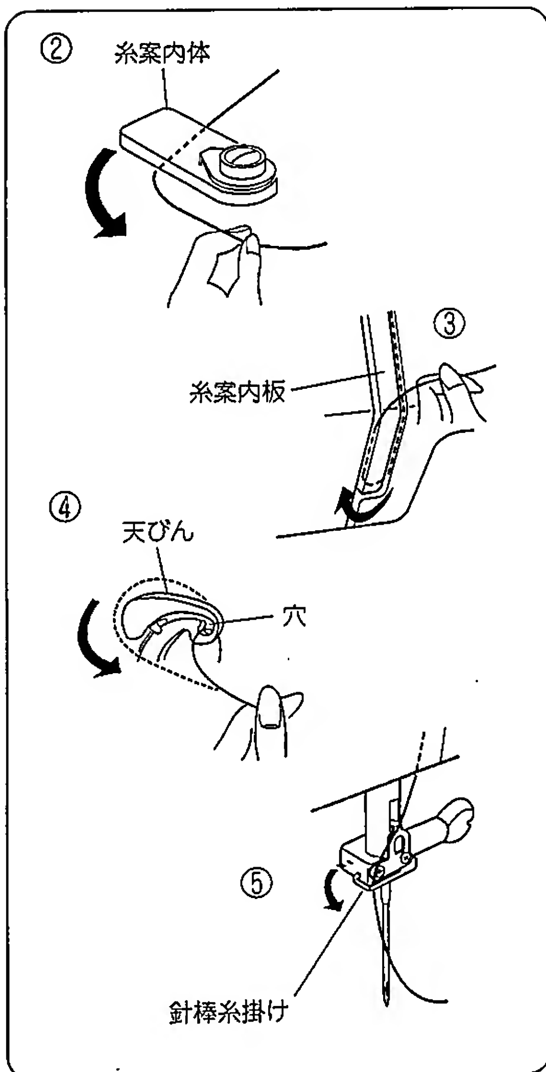
④下糸は10cmくらい引き出して、角板を左側から合わせて付けます。

◎上糸の準備

★上糸をかける



①押さえ上げをあげ、はずみ車を手前にまわし、天びんを上の位置にします。



②糸こまから糸を引き出し､糸こま側の糸を軽く押さえながら糸案内体の下に巻きつけるようにしてかけ、手前に引き出します。

③糸案内板の右側にそって下におろし､糸案内板の下をまわして左上に引きあげます。

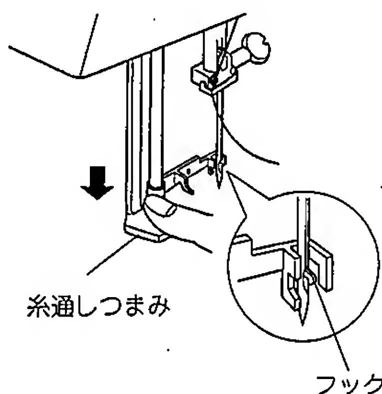
④天びんの右からうしろへまわして左に出し､スリットから穴先まで引き入れて､まっすぐ下におろします。

⑤針棒糸掛けに左からかけます。

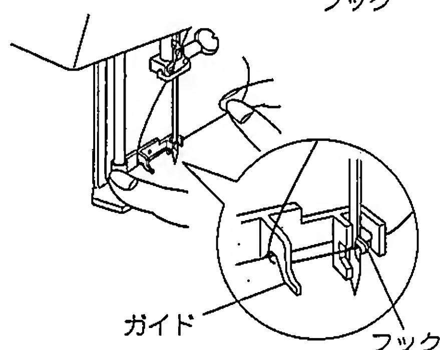
※針には糸通しを使って糸を通します。
糸通しの使い方は、15ページをごらんください。

★糸通しの使い方

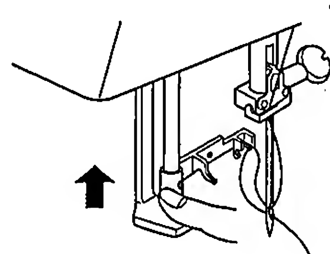
※針は、11番～16番および、ジャノメブルー針が使えます。
糸は、50番～100番が使えます。
(針または糸の太さによっては、使えない場合があります。)

①


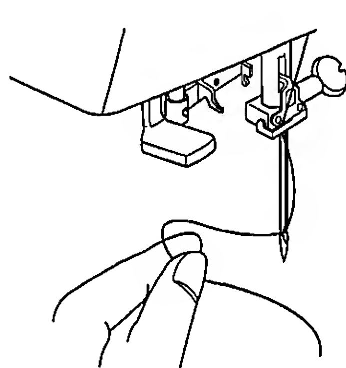
①押さえ上げをさげ、針をあげた状態で、糸通しつまみを止まるまでいっぱいにさげます。
フックが針穴に入ります。

②


②糸を左側からガイドとフックにかけます。

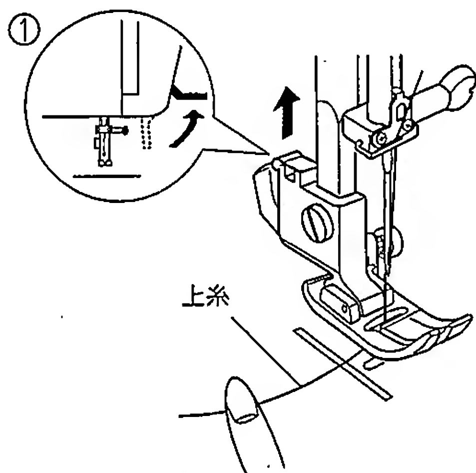
③


③糸の端を軽く持ったまま、糸通しつまみを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

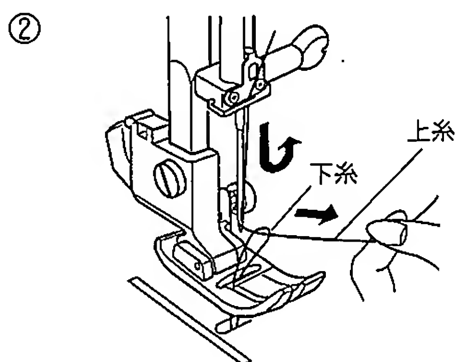
④


④糸の輪を糸通しから外し、針穴から端を引き出します。

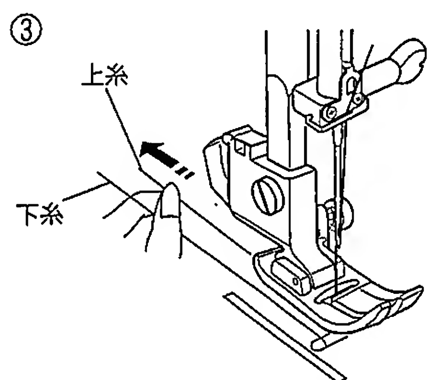
★下糸の引き上げ



①押さえ上げをあげ、上糸の端を指で押さえておきます。



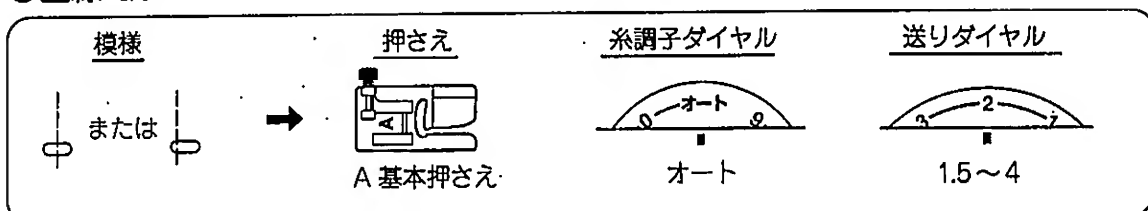
②はずみ車を手前に1回転させ、針をあげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。



③上糸・下糸を押さえの下にして、うしろへそろえて約10cmほど引き出しておきます。

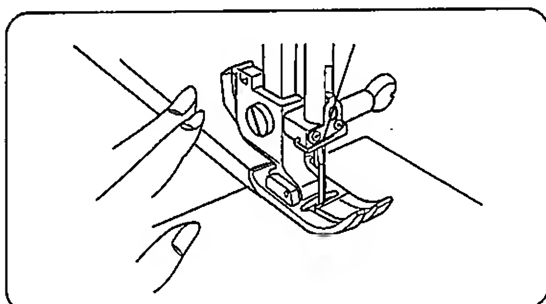
●いろいろな実用ぬい

◎直線ぬい



※模様「1」は、端ぬいなどに使用します。

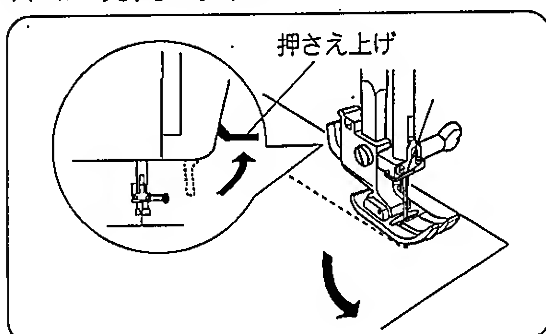
★ぬい始め



糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。
押さえ上げをさげて、ぬい始めます。

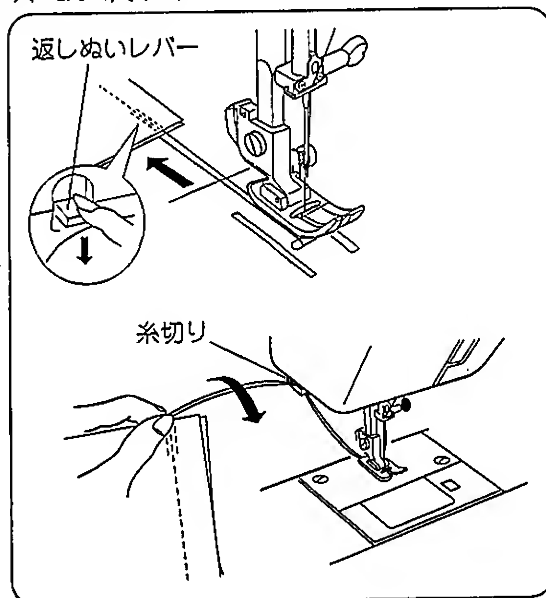
※ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

★ぬい方向の変更



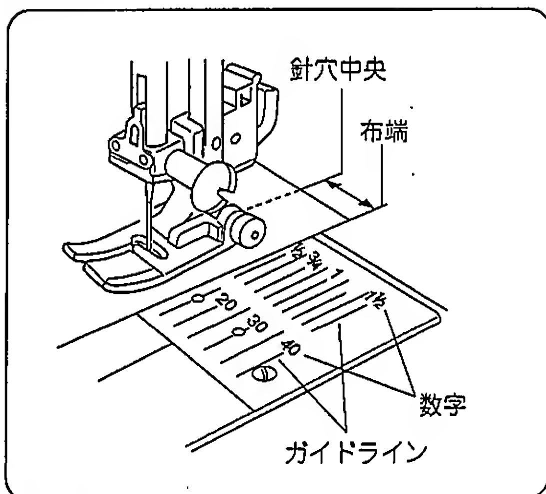
ぬい方向をかえるときは、ミシンを止め、針を布にさしてから押さえ上げをあげます。
針を布にさしたまま、ぬい方向をかえます。
押さえ上げをさげて、再びぬい始めます。

★ぬい終わり



ぬい終わりは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。
押さえ上げをあげて布を向こう側に静かに引き出し、布を手前に返すようにして糸切りで糸を切ります。

★針板ガイドラインの利用

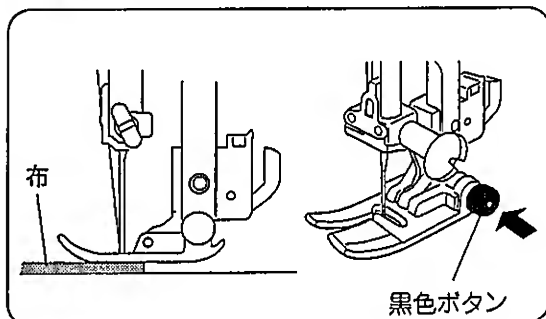


布端を角板および針板の左右にあるガイドラインに合わせてぬうと、布端から正確な位置にぬうことができます。

※ガイドラインの数字は、針穴中央からガイドラインまでの距離を「ミリメートル」または「インチ」で示しています。

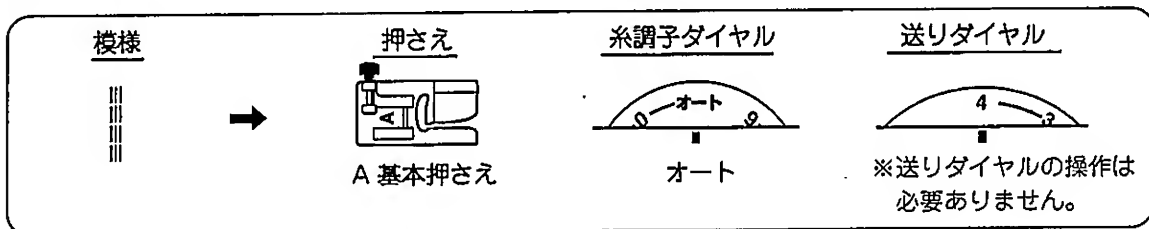
数字	10	20	30	40	1/2	3/4	1	1 1/2
距離 (cm)	1.0	2.0	3.0	4.0	1.3	1.9	2.5	3.8

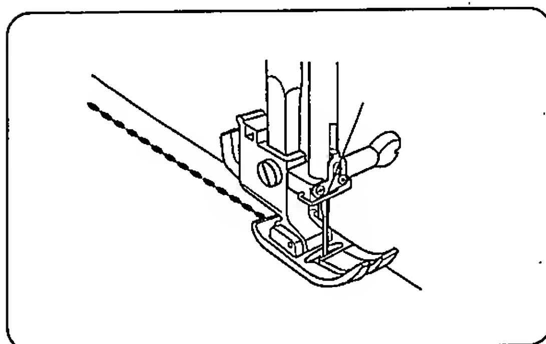
★厚手の布端のぬい始め



ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押しこみます。
ボタンを押したままで、押さえ上げをさげます。
ボタンから手をはなし、ぬい始めます。

◎三重ぬい

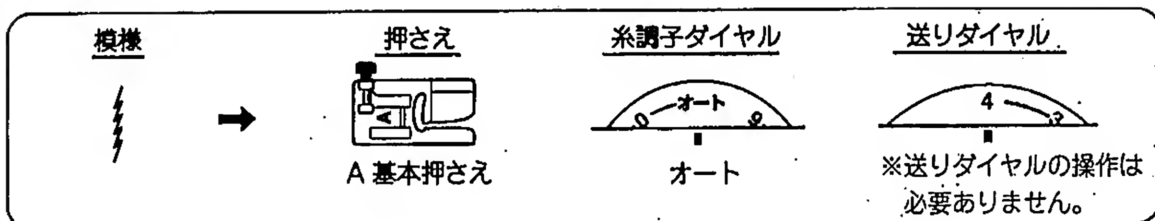


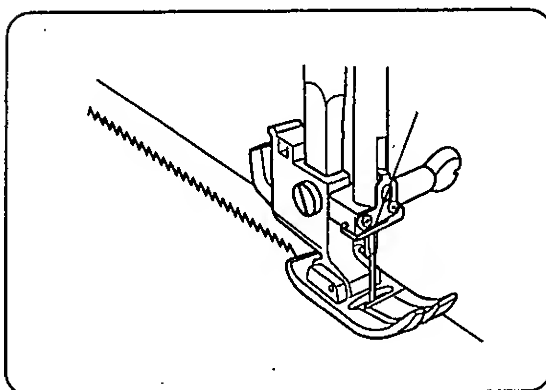


伸縮性のある強いぬい目なので、補強ぬいに便利です。

※布が前後するので、ぬい目が曲がらないように注意してぬってください。

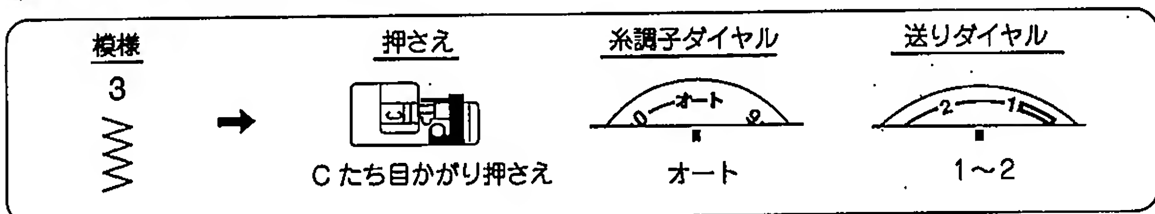
◎伸縮ぬい

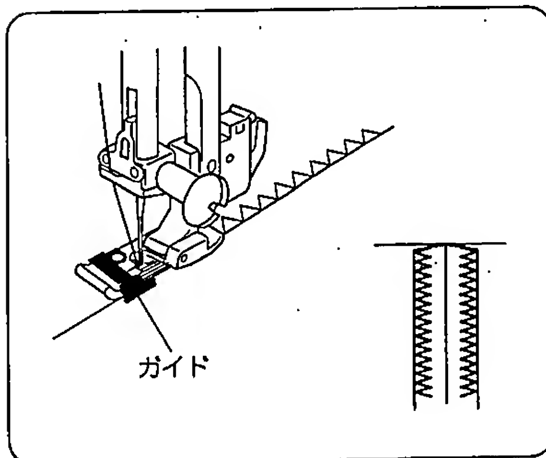




布が伸びても、糸が切れにくい伸縮性のあるぬい目です。
また、直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。

◎ジグザグぬいたち目かがり

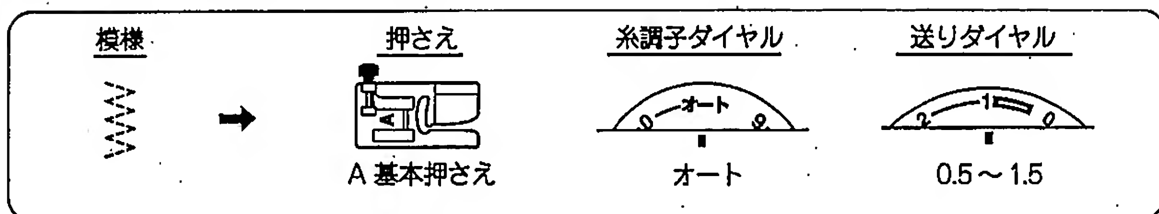


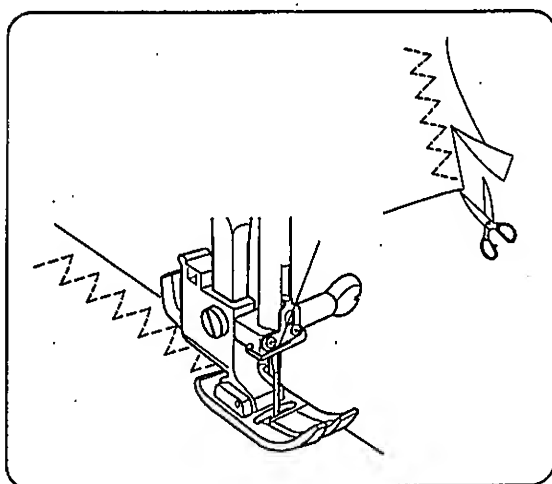


布端のほつれ止めとして広く利用します。
布端をたち目かがり押さえのガイドにあててぬいます。

⚠注意
模様 1 2 は使用しないでください。 針が押さえの針金にあたって折れることがあり、危険です。

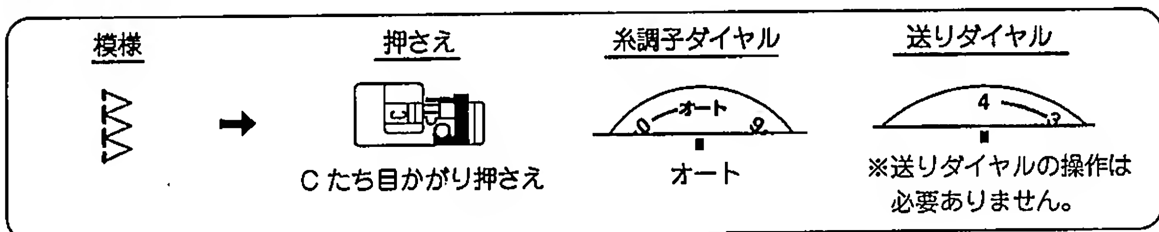
◎トリコットぬいたち目かがり

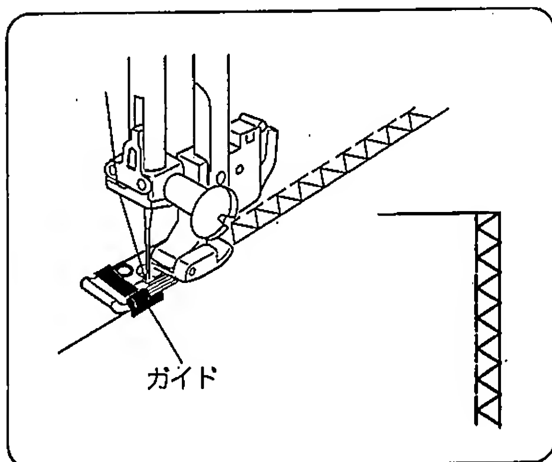




ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

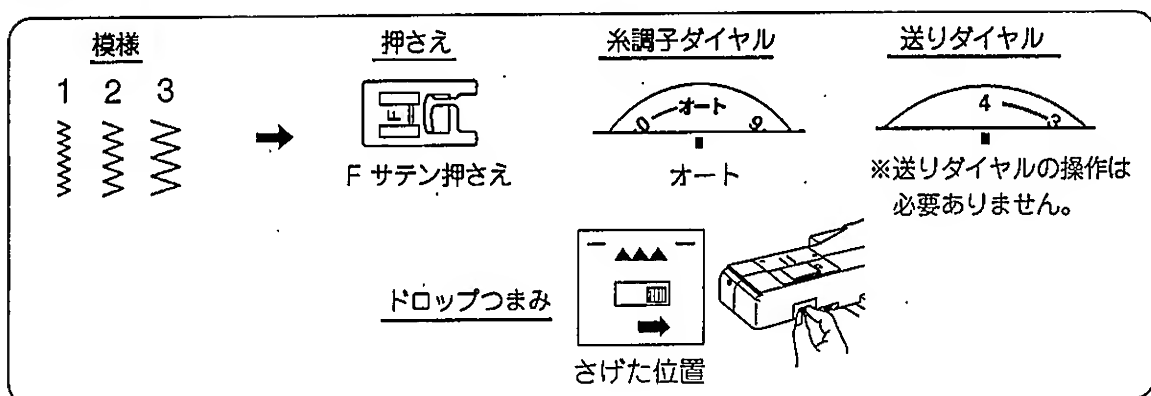
◎かがりぬい

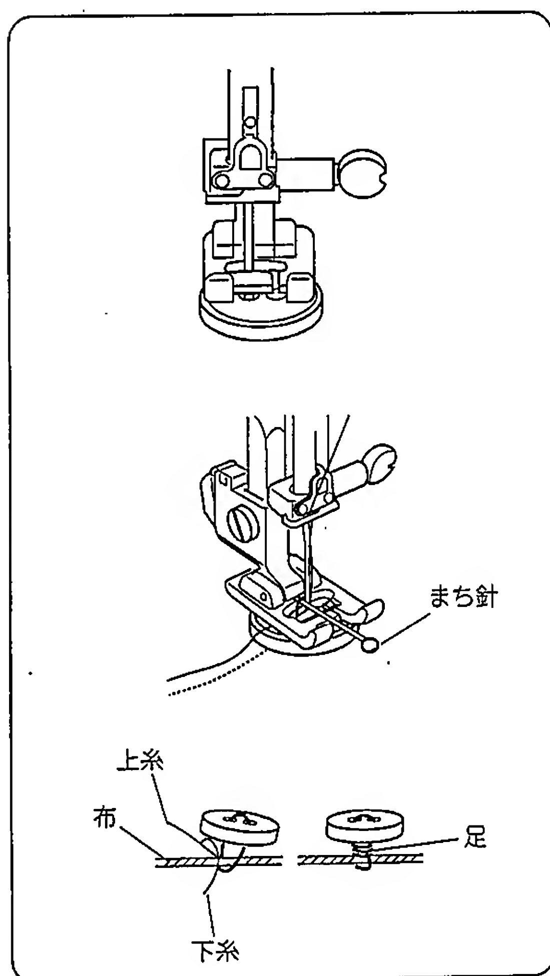




地ぬいをかねた、たち目かがりに利用します。
布端をたち目かがり押さえのガイドにあてててぬいます。

◎ボタンつけ





①針に糸を通さない状態で押さえの下にボタンを置き、はずみ車をまわして、ボタン穴の間かくと同じ模様を選びます。

②針に糸を通し、布とボタンを押さえの下にセットします。

③押さえの中央にまち針をのせ、はずみ車を手前にまわして針がボタンの左右の穴におりることを確かめます。

④ミシンをスタートさせ、10針くらいぬったら止めます。

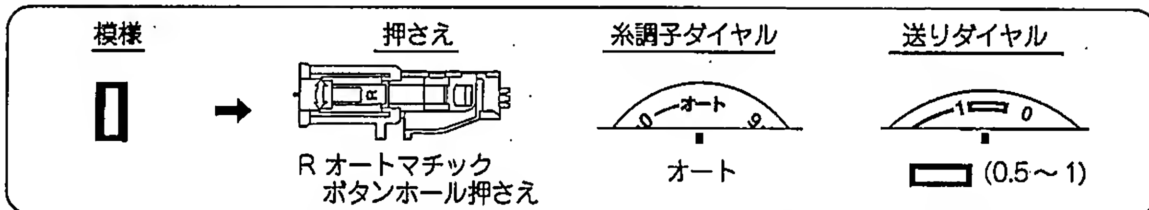
⑤押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を20cmくらい残して切ります。

※ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

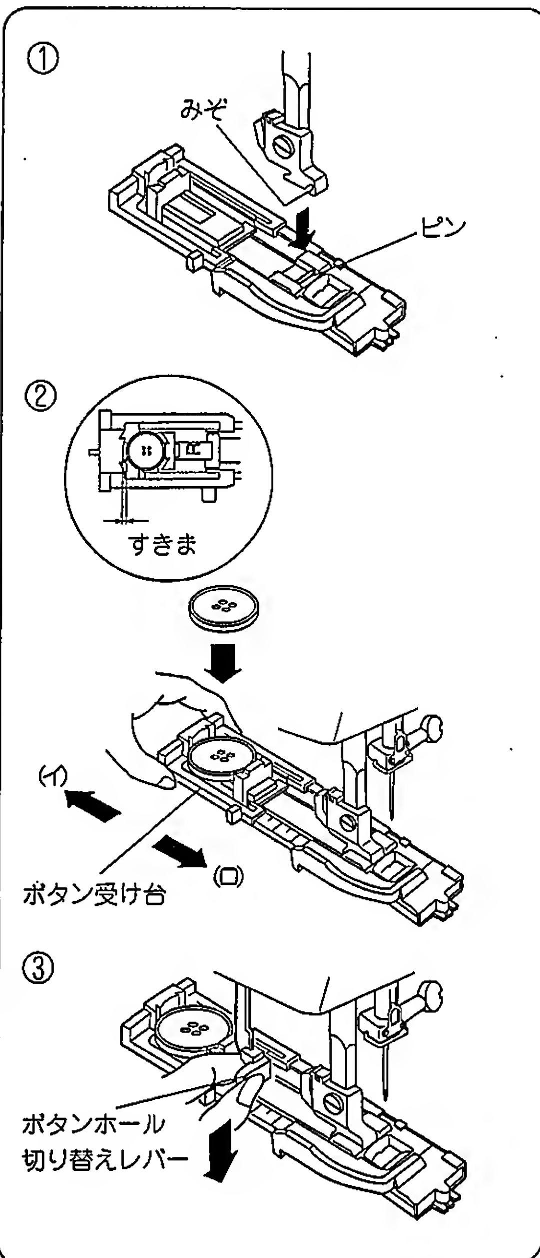
⑥上糸をボタンと布の間に引き出してから、上糸を強く引いて下糸をボタンと布の間に引き出し、上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に数回巻き付けて結びます。

※ぬい終わったらドロップつまみをもとにもどし、送り歯を上げます。

◎オートボタンホール



※ボタンホールの長さは、使用するボタンをセットするだけで自動的に決まります。
※ボタンの直径が 1～2.5cm まで、ボタンホールができます。
※必ず試しぬいをして、正しくぬえることを確認してください。
※伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地をはってください。



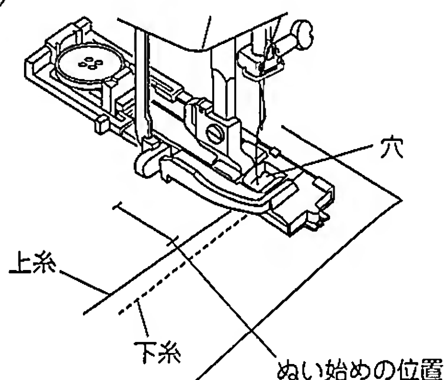
①押さえホルダーのみぞと、押さえのピンを合わせ、押さえ上げをさげてボタンホール押さえをセットします。

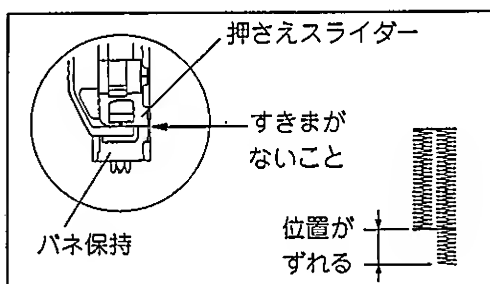
②ボタン受け台を（イ）方向に引き、ボタンをのせて（ロ）方向にもどしてはさみます。

※使用するボタンが極厚の場合は試しぬいをして確かめてください。すきまをあけて位置決めするとその分大きなボタンホールができます。

③ボタンホール切り替えレバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。

④

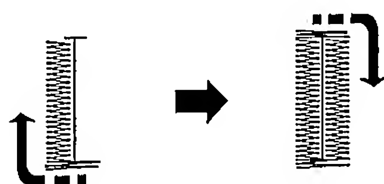




④押さえ上げをあげて、上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れ、ぬい始めの位置に針をさして、押さえ上げをさげます。

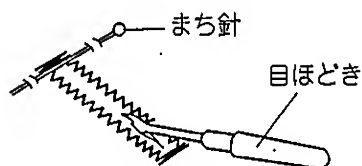
※ぬい始めに、押さえスライダーとバネ保持のあいだにすきまがないことを確認してください。
すきまがあると左右のぬい位置がずれることがあります。

⑤



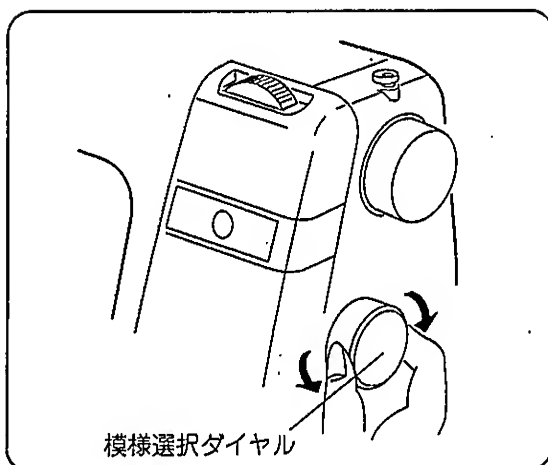
⑤ミシンをスタートさせます。
ボタンホールをぬい終わったところで、自動的に止まります。

⑥ ⑦



⑥押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を 10cm くらい残して切ります。
下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

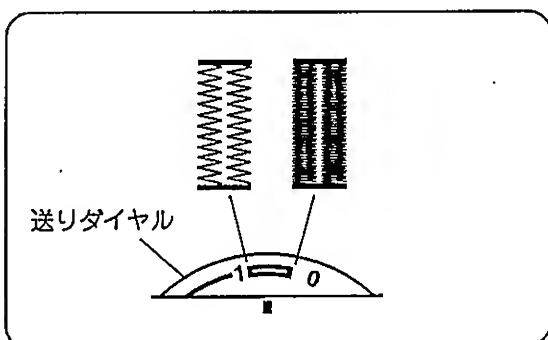
⑦かんぬきの内側にまち針をさし渡して、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。



【引き続きボタンホールぬいをする場合】

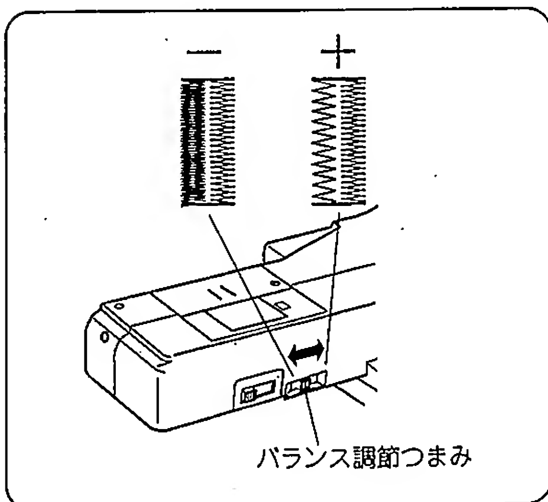
一度、模様選択ダイヤルをまわして他の模様を選び、再び ▯ 模様を選びます。

この操作により、引き続きボタンホールをぬうことができます。



【ぬい目あらさの調節】

ボタンホールのぬい目あらさは、送りダイヤルの目盛り「▭」の範囲で調節します。



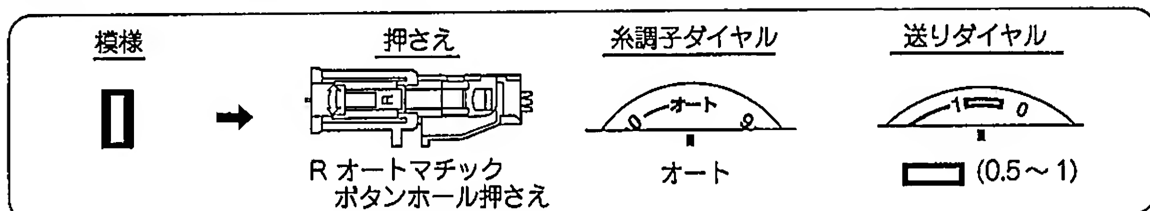
【左右のぬい目あらさがそろっていないとき】

左側のぬい目あらさをバランス調節つまみで調整します。

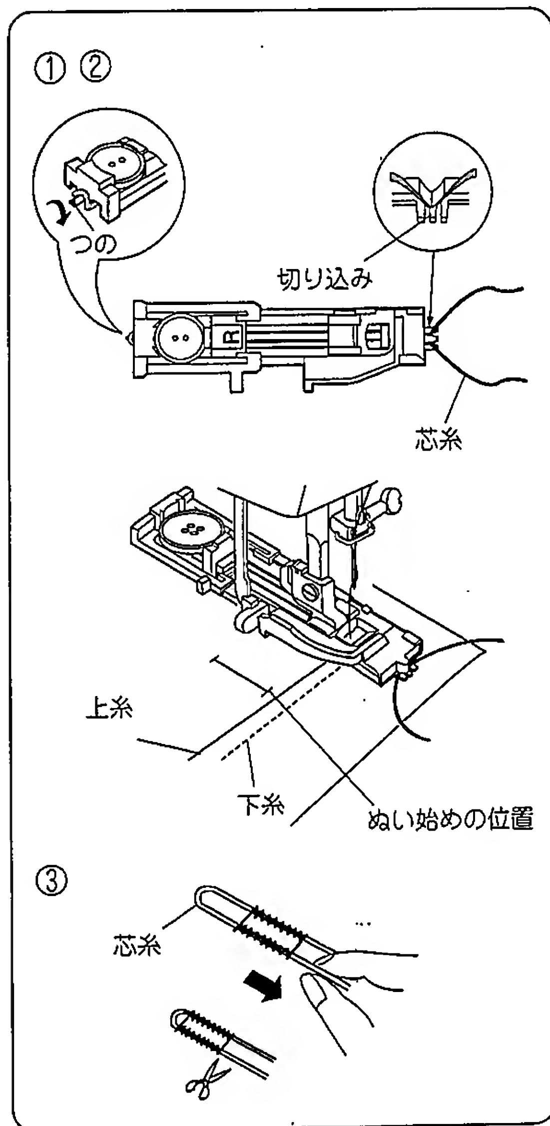
- 右側のぬい目とくらべ、左側のぬい目が細かいときには、＋方向につまみを動かします。
  左側のぬい目があらくなります。

- 右側のぬい目とくらべ、左側のぬい目があらいときには、－方向につまみを動かします。
  左側のぬい目が細かくなります。

◎芯入りオートボタンホール



※芯糸を入れてぬうと、丈夫なボタンホールができます。
（芯糸にはレース糸や太い糸などを使用します。）



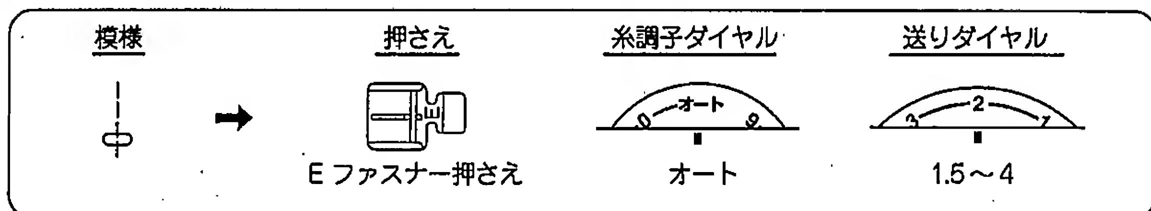
①押さえのうしろ側のつのにかけた芯糸を、押さえの下を通して、前側の切り込みにはさみます。

②ぬい始めの位置に針をさして押さえ上げをさげ、ぬいます。

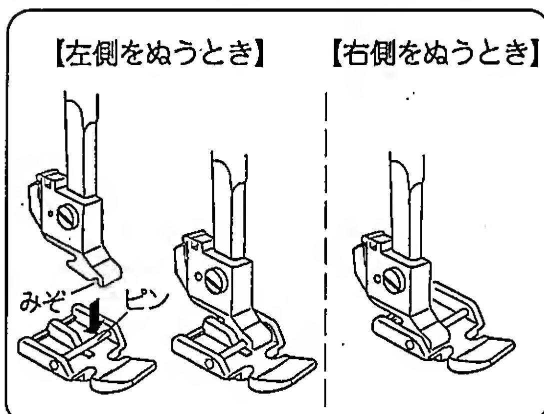
※ぬい方はオートボタンホールぬいの手順と同じです。

③芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

◎ファスナー付け

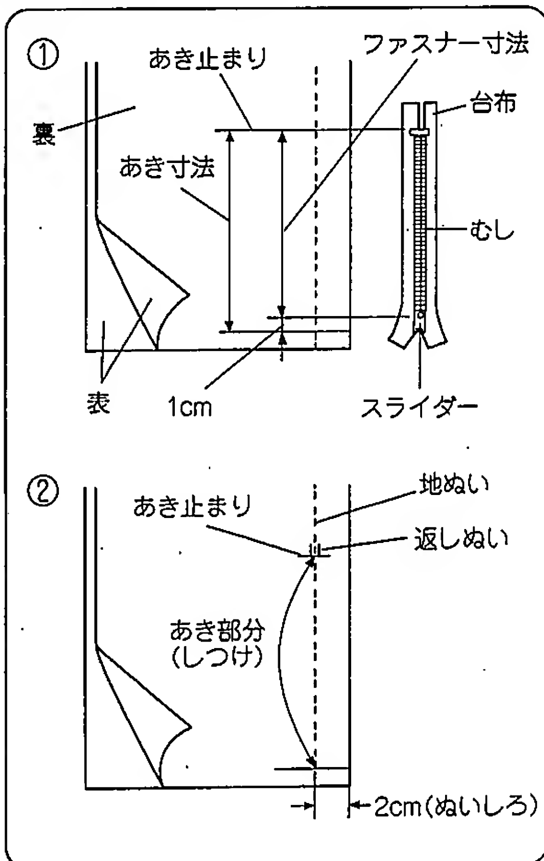


★ファスナー押さえの取り付け方



ファスナーの左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。
右側をぬうときは、左側にセットします。

★準備（例：左脇あきのぬい方）

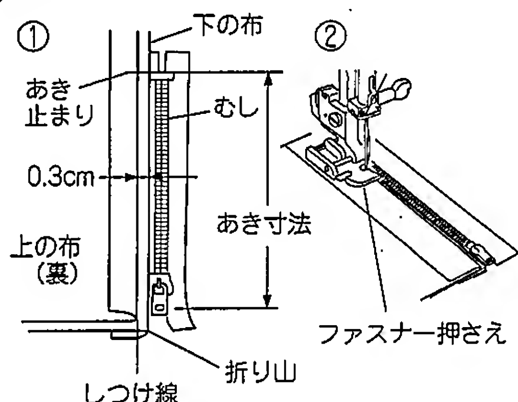


①ファスナーのあき寸法を確かめます。
あき寸法はファスナー寸法に1cmプラスした寸法です。

②仮ぬいのしつけと地ぬいをします。
布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
あき部分は、しつけをします。

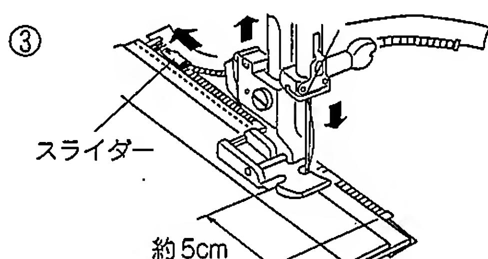
※しつけはほどきやすいように、送りダイヤルの目盛りを「4」(0.4cm)、糸調子ダイヤルの目盛りを「1」くらいにしてぬいます。

★ぬい方

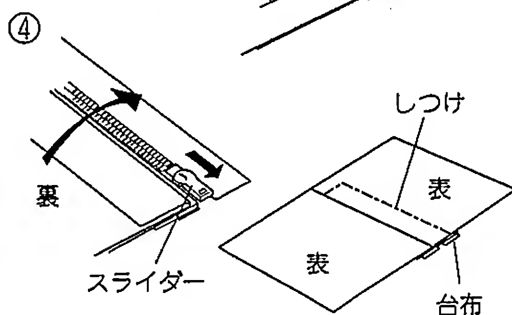


①ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

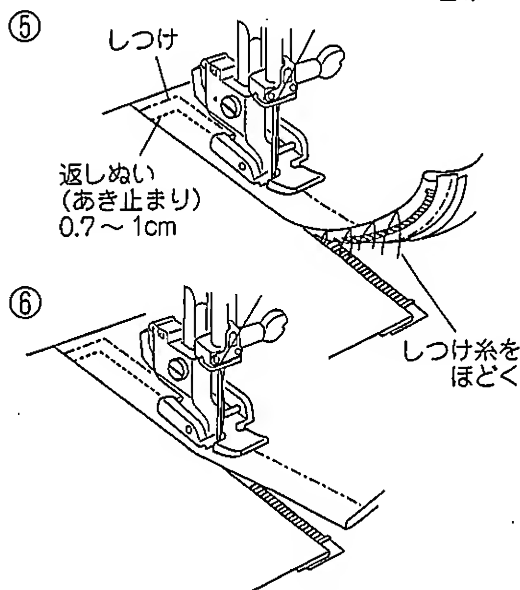
②押さえホルダーをファスナー押さえの右側にセットして、むしのきわに押さえの端をあてて、あき止まりからぬいます。



③ファスナーの端から5cmほど手前でミシンを止め、針を布にさします。
押さえ上げをあげてスライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。



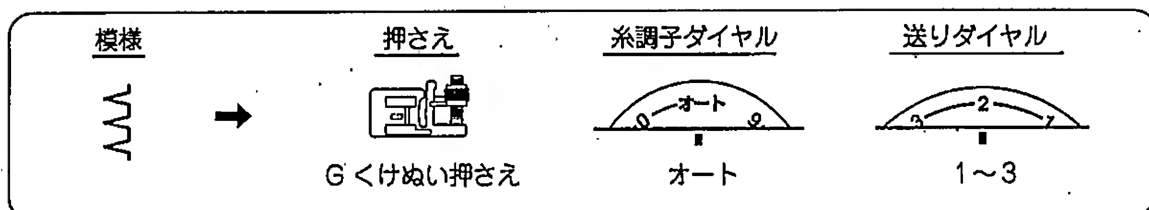
④ファスナーをとじ、スライダーを上にたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。
かぶせた布と台布をしつけで止めます。



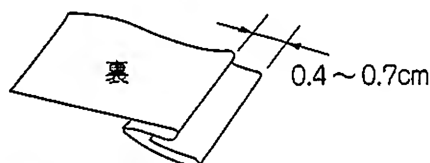
⑤押さえホルダーをファスナー押さえの左側に付けかえ、上の布のあき止まりを（0.7～1cm）返しぬいします。
布の向きをかえ、むしのきわに押さえの端をあててぬいます。
ファスナーの上側を5cmほど残したところで止め、はずみ車をまわして針をさげ、針を布にさしたままで押さえ上げをあげて、★準備 ②でぬったしつけ糸をほどきます。

⑥スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。
ぬい終わったら手順④でぬったしつけ糸をほどきます。

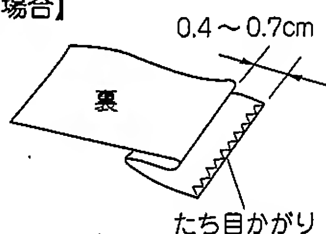
◎くけぬい（まつりぬい）



① 【うすい布・普通の布の場合】

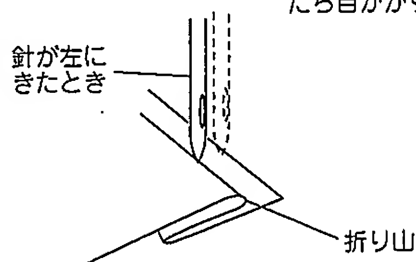


【厚い布の場合】



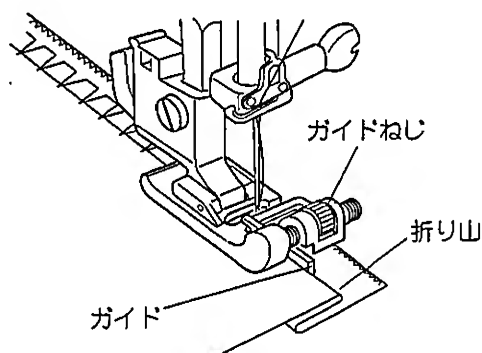
①布の裏を上にして、図のように、布端を0.4～0.7cmほど出して折り込みます。

②



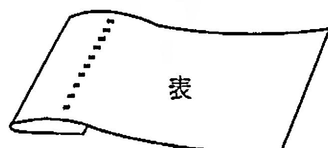
②針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて、押さえ上げをさげます。

③



③ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山から外れないようにぬいます。

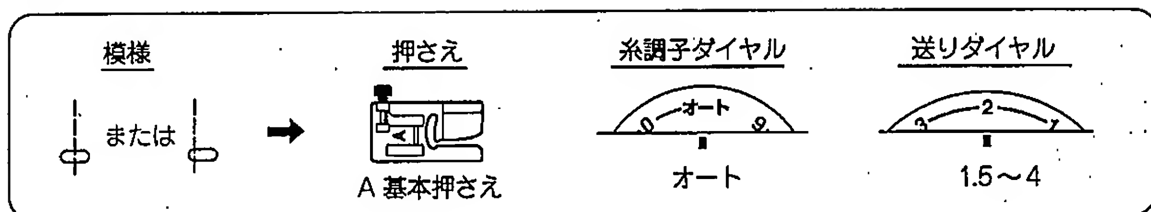
④

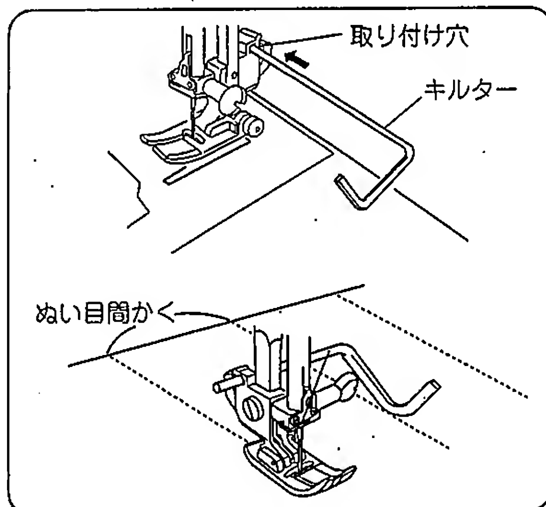


④ぬい終わったら布を表に返します。

※左側におりる針が折り山に必要以上にかかりすぎると、表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりませんので注意してください。

◎キルティング

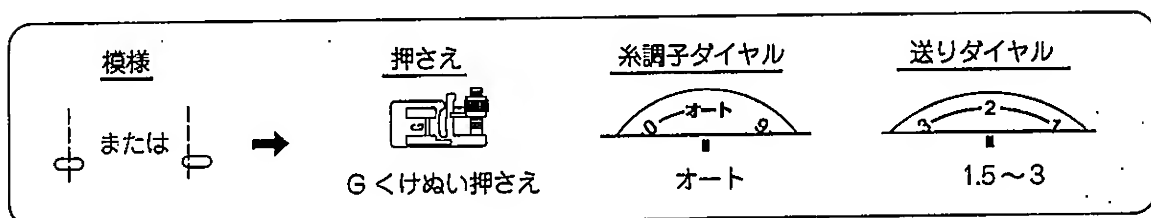


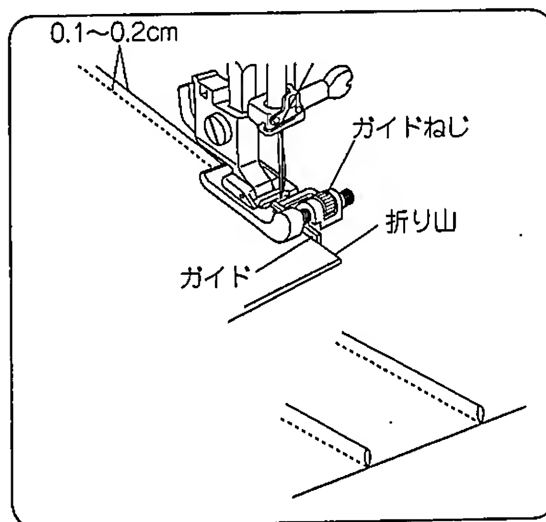


キルターを取り付け穴に入れ、ぬい目の間かくに合わせます。

※キルターは、前にぬったぬい目をたどるのに使います。

◎ピンタック

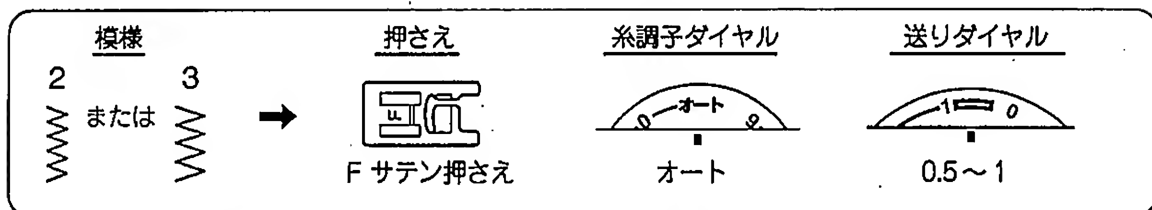




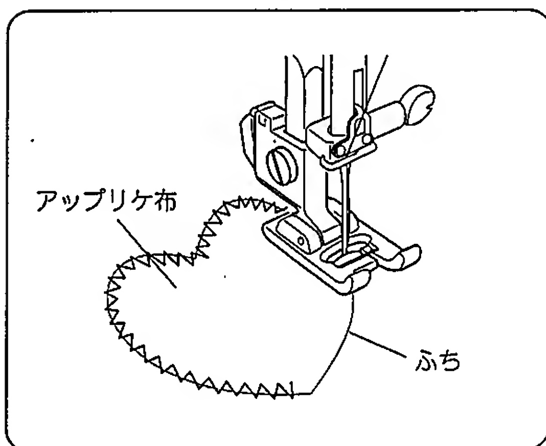
※ブラウスの前見頃などの装飾に利用します。

はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1～0.2cm内側におりるように布を置いて、押さえ上げをおろします。
ガイドねじをまわしガイドを折り山に合わせて、ぬいます。

◎アップリケ



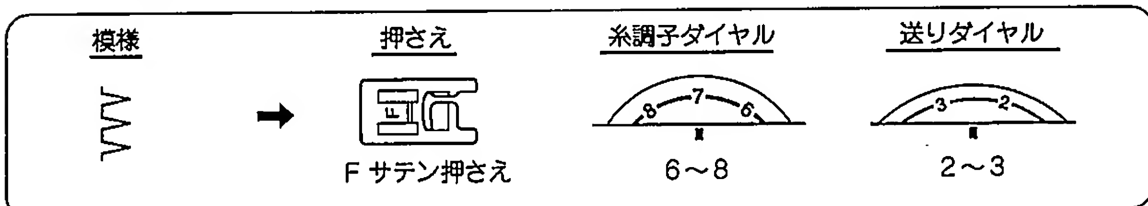
※アップリケ布は糊づけするか、しつけで止めておきます。
また、両面接着芯を使うと便利です。



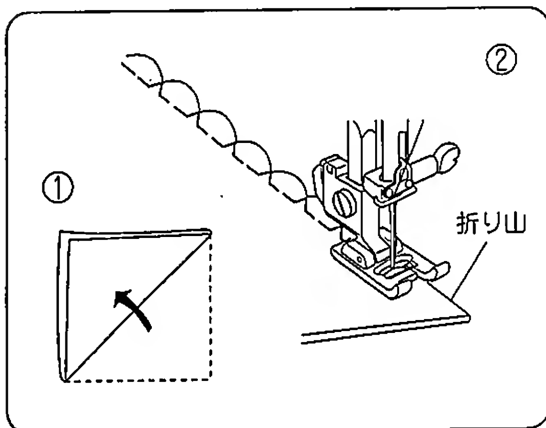
アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちをぬいます。

※カーブのところや方向転換をするところではミシンを止め、はずみ車を手前にまわして針を布にさした状態で、押さえ上げをあげて方向をかえるときれいに仕上がります。

◎シェルタック



※糸調子は試しぬいをして、シェルタックの山がきれいに出るように調整します。



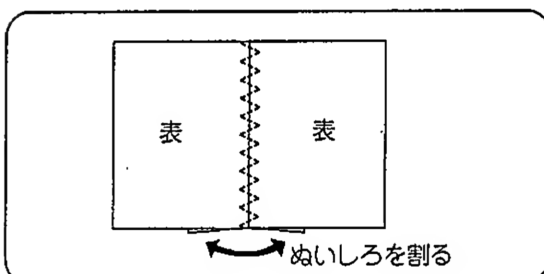
①布をバイアスに、2つ折りにします。

②針が右にきたとき、布の折り山の外側ぎりぎりをぬっていきます。

※ぬい終わったあと、布を開き、アイロンで山を片側にたおします。

◎パッチワーク

模様	押さえ	糸調子ダイヤル	送りダイヤル
または →	A 基本押さえ	オート	0.5～1.5

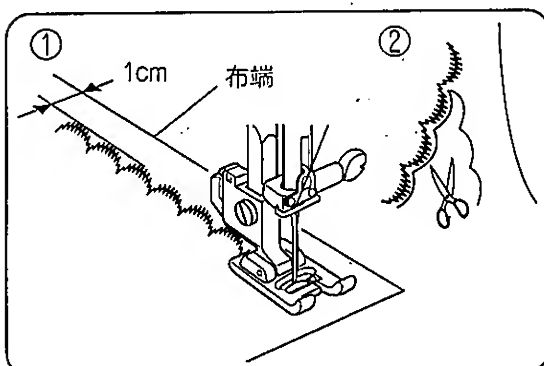


※模様 は、送りダイヤルの操作は必要ありません。

布を中表に合わせ、地ぬいをして、ぬいしろを割ります。
布の表から、地ぬいの線を中心にしてぬいます。

◎スカラップ

模様	押さえ	糸調子ダイヤル	送りダイヤル
→	F サテン押さえ	オート	0.5～1

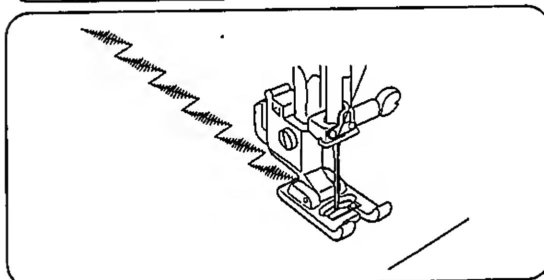


①布を表から、布端を 1cm くらい残してぬいます。

②糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

◎飾りぬい

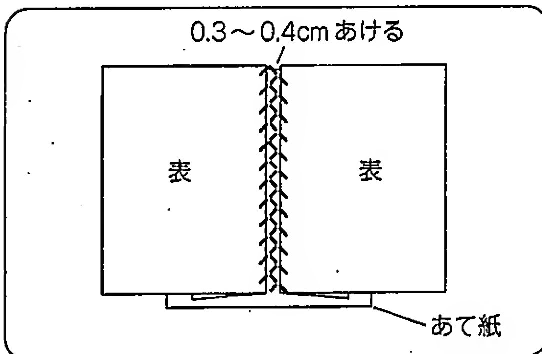
模様	押さえ	糸調子ダイヤル	送りダイヤル
または →	F サテン押さえ	オート	0.5～1



送りダイヤルを合わせるとき、ぬい目が細かすぎるとつまることがあるので、試しぬいをして調節してください。
※布が縮むときは、布の下に紙をしくか、接着芯を貼るときれいに仕上がります。

◎ファゴティング

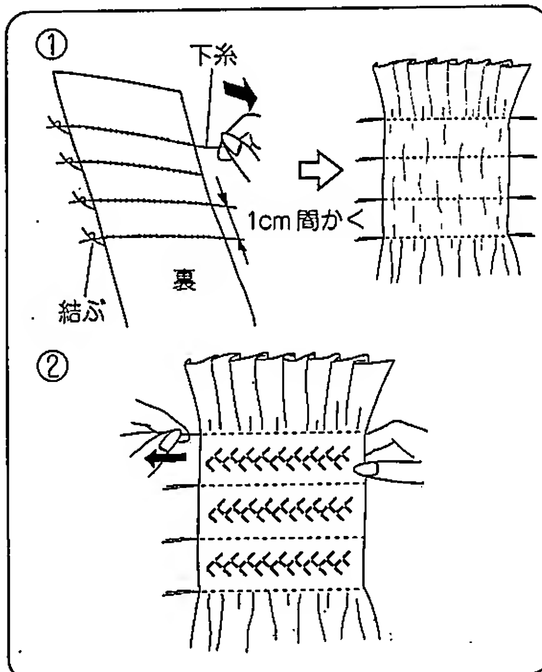
模様	押さえ	糸調子ダイヤル	送りダイヤル
	A 基本押さえ または F サテン押さえ	オート	※送りダイヤルの操作は必要ありません。



布端と布端の間かくを0.3～0.4cmあけて、下にあて紙をおきます。
布の表から、間かくの中央を中心にしてぬいます。
最後にあて紙を取ります。

◎スモッキング

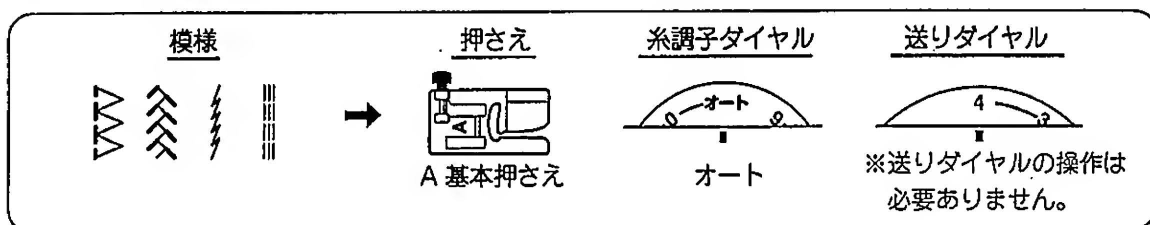
模様	押さえ	糸調子ダイヤル	送りダイヤル
	A 基本押さえ	オート	※送りダイヤルの操作は必要ありません。

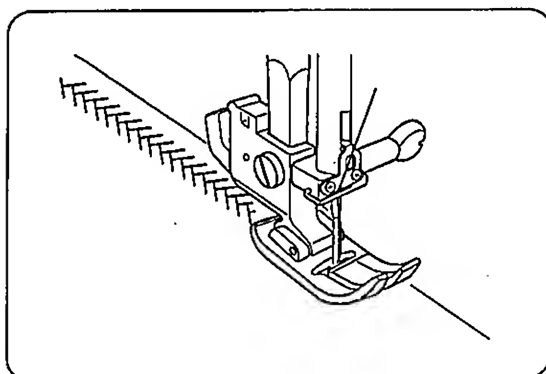


①糸調子ダイヤルの目盛り「1」～「3」、送りダイヤルの目盛り「3」～「4」の直線ぬいを、1cm間かくで数本ぬい、上糸と下糸を布の片側で結びます。
結んだ糸の反対側から下糸を引いてひだをよせ、上糸と下糸を結びます。

②直線ぬいと直線ぬいのあいだに模様ぬいをします。
直線ぬいの糸を抜き取ります。

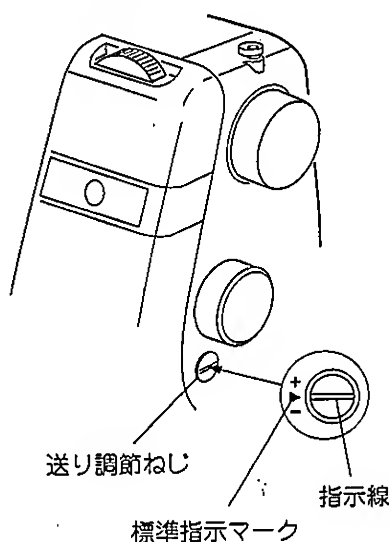
◎スーパー模様ぬい

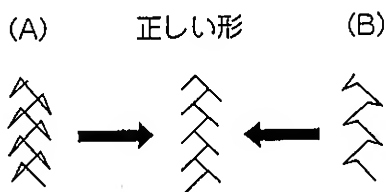




布が前後するので、ぬい目が曲がらないように注意してぬいます。
模様の形が整わないときは、送り調節ねじで調節します。

【スーパー模様の形の整え方】





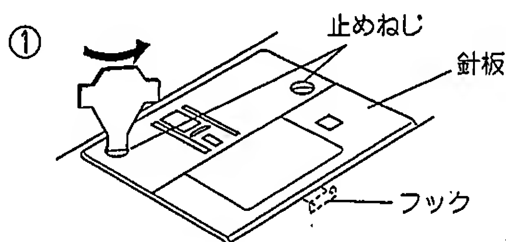
布の種類・枚数・ぬいの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合があります。
実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送り調節ねじで、つぎのように調節してください。

- 図 (A) のように模様がつまって入いるときは、送り調節ねじを「＋」方向にまわします。
- 図 (B) のように模様が伸びているときは、送り調節ねじを「−」方向にまわします。

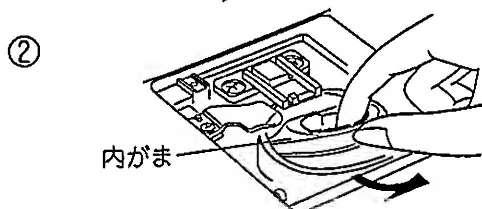
※標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しくぬえる目安の位置です。

●ミシンのお手入れ

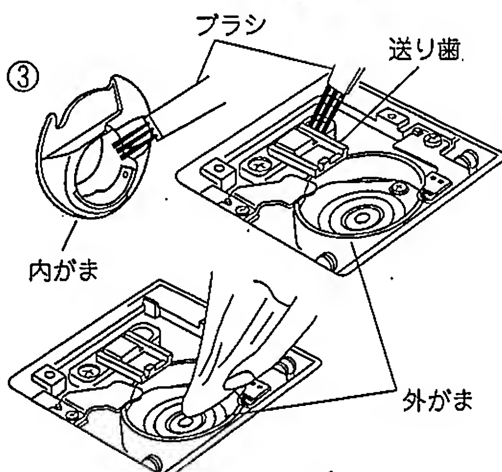
◎かまと送り歯の掃除

①


①針と押さえを外します。
2カ所の止めねじを外し、フックを外して、針板を取り外します。

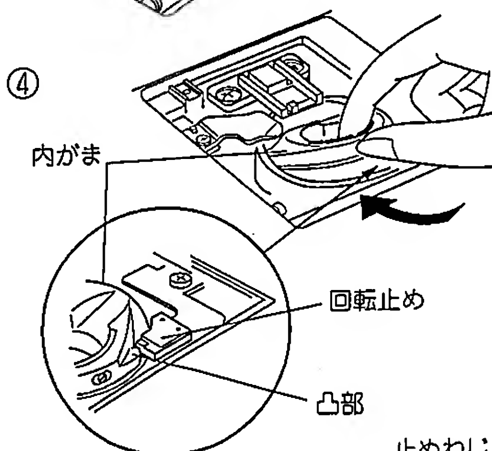
②


②ボビンを取り出し､内がまの手前を上に引きながら外します。

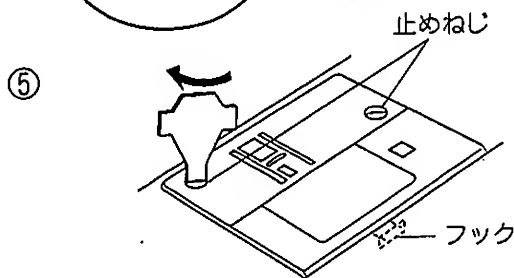
③


③内がまは、ブラシで掃除し、布切れで軽くふきます。
送り歯のごみは、ブラシで手前に落とします。
外がまのまわりと中のごみを取り除き､中央部を布切れで軽くふきます。

※ブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸い取ってください。

④


④掃除が終わったら､内がまの凸部を回転止めの左側に合わせて、内がまを差し込みます。

⑤


⑤ボビンを入れます。
フックを合わせて針板を取り付け､止めねじで固定します。

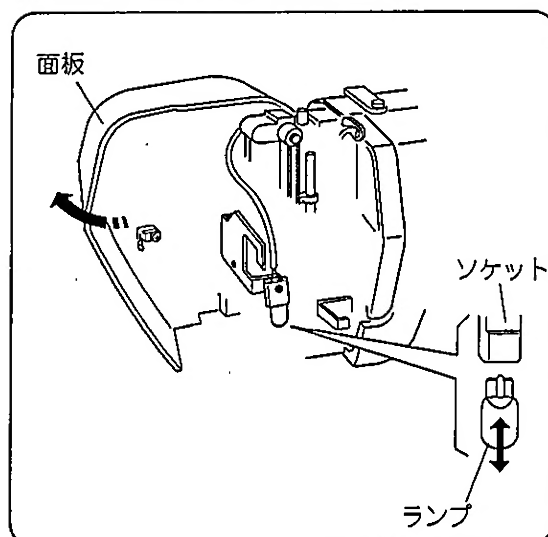
※お手入れが終わったら､針と押さえを取り付けておいてください。

⚠注意

- お手入れのときは､必ず電源スイッチを切り､コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 説明されている場所以外は、分解しないでください。

感電・火災・けがの原因になります。

◎ランプの取りかえ方



【外し方】
①面板を開けます。
②ランプをそっと引き抜きます。

【取り付け方】
①ランプをソケットの穴に合わせながら、差し込みます。
②面板を閉めます。

※ランプの購入は、販売店へお問い合わせください。
ランプ品番は、000026002（12V、5W）です。

⚠注意
ランプを交換するときは、 • 必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。 • また、ランプが冷えてから行ってください。 感電・やけどの原因になります。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる。	1．上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 2．上糸調子が強すぎる。 3．針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4．針の付け方がまちがっている。 5．ぬい始めに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6．ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 7．針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	14ページ参照 8ページ参照 10ページ参照 10ページ参照 17ページ参照 17ページ参照 10ページ参照
下糸が切れる。	1．下糸の通し方が、まちがっている。 2．内がまの中に、ごみがたまっている。 3．ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	13ページ参照 34ページ参照 ボビンを交換する
針が折れる。	1．針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2．針止めねじのしめ付けが、ゆるんでいる。 3．ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 4．布にくらべて針が細すぎる。	10ページ参照 10ページ参照 17ページ参照 10ページ参照
ぬい目がとぶ。	1．針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2．布に対して、針と糸が合っていない。 3．伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ジャノメブルー針（市販ＳＰ針）を使っていない。 4．上糸のかけ方がまちがっている。 5．品質の悪い針を使用している。	10ページ参照 10ページ参照 10ページ参照 14ページ参照 針を交換する
ぬい目がしわになる。	1．上糸調子が合っていない。 2．上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 3．布にくらべて針が太すぎる。 4．布にくらべてぬい目があらすぎる。 ＊特にうすい布をぬうときは、下側に紙をあててぬってください。	8ページ参照 13・14ページ参照 10ページ参照 ぬい目を細かくする
布送りがうまくいかない。	1．送り歯に糸くずがたまっている。 2．ぬい目が細かすぎる。 3．送り歯があがっていない。	34ページ参照 ぬい目をあらくする 6ページ参照
ぬい目に輪ができる。	1．上糸調子が弱すぎる。 2．糸にくらべて針が太すぎるか、細かすぎる。	8ページ参照 10ページ参照
ぬいずれがおこる。	1．押さえ圧が合っていない。	7ページ参照
ミシンがまわらない。	1．コンセントに、プラグがきちんと差し込まれていない。 2．かまに、糸やごみがたまっている。 3．糸巻き軸が、下糸を巻いたあと、もとにもどっていない。（糸巻き状態になっている）	5ページ参照 34ページ参照 12ページ参照
ボタンホールがうまくいかない。	1．布に対して、ぬい目のあらさが合っていない。 2．伸縮性のある布のとき、伸びにくい芯地を使っていない。	24ページ参照 22ページ参照
音が高い。	1．かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2．送り歯に、ごみがたまっている。	34ページ参照 34ページ参照

修理サービスのご案内

●お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保存してください。
●無料修理保証期間内（お買い上げ日より１年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申しつけください。

修理用部品の保有期間

●当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後８年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

●使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
1）保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
2）浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
3）お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
4）お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
5）職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
●長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
●有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は
下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社
〒104-8311 東京都中央区京橋3-1-1
TEL. 0120-277039（フリーダイヤル）
（受付　月曜日～金曜日
9時 ～ 12時
13時 ～ 17時）

仕様	
使用電圧	100V　50/60Hz
消費電力	55W ／ランプ 5W
外形寸法	幅41cmX奥行18cmX高さ28cm
重量	8.5kg（本体）
使用針	家庭用　HA X 1
縫速度	毎分700針（フットコントローラー使用時毎分800針）

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

本社移転のお知らせ

平素は弊社製品のご愛顧を賜わり厚く御礼申し上げます。
さて、この度、弊社は下記に本社を移転することとなりましたので
お知らせ申し上げます。
今後とも一層のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

記

◉移転先

住　所　〒193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地
電　話　お客様相談室 0120 − 026 − 557（フリーダイヤル）
　　　　042 − 661 − 2600
受付　平日　9：00～12：00　13：00～17：00
　　　（土・日・祝日・年末年始を除く）
ホームページ　http://www.janome.co.jp
メールでのお問い合わせ　customer@gm.janome.co.jp

◉移転日

2009 年 7 月 6 日

※旧住所　〒104-8311 東京都中央区京橋 3 丁目 1 番 1 号
旧電話　お客様相談室 0120 − 026 − 557（フリーダイヤル）変更なし
　　　　03 − 3277 − 2200

蛇の目ミシン工業株式会社

101013002